

生態系保全アクションプラン 平成22年度の進捗状況及び平成23年度実施計画(案) (島毎の整理表)

(1)父島列島(1/2)

凡例：環境省事業 林野庁事業 東京都事業 小笠原村事業 その他【共同実施事業等】

島名	対策の方向性	取組の項目	推薦後の短期目標 (~H24年度末)	対策の内容	事業進捗		
					平成21年度	平成22年度	平成23年度予定
父島	乾性低木林の保全及びムニンヒメツバキ林の保全	ノヤギ駆除	エリア排除完了 駆除着手・継続	柵内におけるノヤギの駆除を実施。【環境省】 左記の取組を継続。【小笠原村】 平成21年度から各機関連携のもと、戦略的に着手(全域)。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	柵内排除計画検討【No.環1】 生息状況調査、排除計画検討【No.都1】	ノヤギ柵竣工～柵内排除開始【No.環1】 排除計画策定、排除【No.都1】	柵内排除継続 排除継続
		外来植物全般	-	外来植物全般に関するものをまとめて右に記載	外来植物分布図等の作成【No.林1】		中長期計画の作成 ノヤギ・ノネコ柵内での駆除
		モクマオウ・リュウキュウマツ駆除	エリア排除継続・拡大	父島東平において、エリア排除を目指してモクマオウ等の駆除等を実施。また、夜明平において、NPO等と整備協定を締結しモクマオウ等の駆除の推進を継続。【NPO等、林野庁】	東平で駆除継続【No.林11】 東部地区で分布調査、駆除前モニタリング	東平で駆除継続【No.林11】 東部地区で駆除、駆除前後モニタリング等【No.林3】 NPO等との協働駆除【No.林7】	駆除継続 駆除継続 継続
		アカギ駆除	エリア排除継続	エリア排除完了以降は萌芽処理等を実施(東平アカガシラカラスバトサンクチュアリー)。【NPO等、林野庁】	東平で駆除継続【No.林11】 東部地区で分布調査【No.林3】	東平で駆除継続【No.林11】 東部地区で駆除、駆除前後モニタリング等【No.林3】 NPO等との協働駆除【No.林7】	駆除継続 駆除継続 継続 都有地での駆除
		キバンジロウ駆除	エリア排除継続	各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	東部地区で分布調査等【No.林3】	東部地区で分布調査等【No.林3】 NPO等との協働駆除【No.林7】	駆除継続 継続
		ガジュマル駆除	エリア排除着手	各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	東部地区で分布調査【No.林3】	東部地区で分布調査等【No.林3】	
		ギンネム駆除	エリア排除着手	各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	東部地区で分布調査等【No.林3】	東部地区で分布調査等【No.林3】 NPO等との協働駆除【No.林7】	駆除継続 継続
		希少植物種の保護	保護継続	東平に生育する希少植物種について、保護ネット設置箇所の巡視継続。【環境省】	巡視等の継続【No.林9】 生育状況調査、域外系統保存等【No.環】	活動継続【No.林9】 生育状況調査、域外系統保存等【No.環15】	活動の継続 生育状況調査等継続
	アカガシラカラスバトの生息地の保全	ノネコ排除	エリア排除完了 排除継続	東平の柵内におけるネコの排除を完了。【環境省】 東平における柵及び捕獲の効果を検証の上、島内の排除策を検討。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】 南部重要地域(既知のアカガシラカラスバト繁殖地周辺)を中心とする地域からネコの排除を実施、父島島内の生息密度の低下。【環境省】	排除計画策定、排除区周辺捕獲 緊急捕獲の実施【No.林8】 捕獲継続、範囲の拡大【No.民1】	排除継続、モニタリング【No.環1、2】 緊急捕獲の実施【No.林8】 捕獲継続【No.民1】	ノネコ柵設置、排除継続 活動の継続
		アカガシラカラスバト生息状況調査	(アクションプランに記載なし)		アカガシラカラスバト生息環境調査【No.林9】 サンクチュアリの維持【No.林11】 生息状況、餌資源調査等【No.環12】	調査継続【No.林9】 サンクチュアリの維持【No.林11】 生息状況調査等、環境条件地理的情報収集【No.環12】	活動の継続 活動の継続 生息状況調査の継続
		陸産貝類の生息地の保全	ニューギニアヤリガタリクウズムシ駆除 陸産貝類の保全 クマネズミ駆除	エリア防衛継続 (中長期的に対応)	陸産貝類生息地(巽崎・鳥山・夜明山等)にサンクチュアリーを設定、エリア防衛対策を実施。【環境省】	設備の実地試験の実施、その他手法の検討【No.環9】	屋外飼育施設設置、再導入に向けた検討【No.環9】 室内飼育の開始、再導入に向けた検討【No.環9】
	オガサワラオオコウモリの生息地の保全	オガサワラオオコウモリ保全対策	保護対策の拡充 保護と食害防除の両立	生息地について保護担保措置の検討も含めて対策を拡充。【環境省・林野庁・文化庁・東京都・小笠原村】 保護に配慮した食害防除法の開発・試行【文化庁・東京都・小笠原村】	鳥獣保護区の見直し【環】 食害防除試験の実施【村2・文・東】	保護増殖事業計画策定【文・農・国・環】 食害防除試験の継続【村2・文・東】	生息数調査等【No.環13】 食害防除試験の継続
	固有昆虫類の生息地の保全	グリーンアノール駆除	(中長期的に対応)				
		モクマオウ・リュウキュウマツ駆除	エリア排除継続・拡大	再掲			
	その他の対策	グリーンアノール駆除	エリア排除(拡散防止)継続	父島二見港周辺において、属島への拡散を防止するため、駆除、監視、普及啓発を継続。【環境省】	二見港周辺の捕獲の継続【No.環6】	捕獲の継続【No.環6】	捕獲の継続
		オオヒキガエル駆除	エリア排除(拡散防止)継続	父島二見港周辺において、属島への拡散を防止するため、駆除、監視、普及啓発を継続。【環境省】	二見港周辺の捕獲の継続【No.環6】	捕獲の継続【No.環6】	捕獲の継続
		ノネコ排除	条例の適正な運用による管理の徹底	飼いネコ・ノラネコ対策を実施(95%以上の不妊去勢率達成・60%以上のマイクロチップ挿入、条例改正)。【小笠原村・小笠原ネコに関する連絡会議・東京都獣医師会・NPO】	マイクロチップ挿入【No.民2】	派遣診療要請【No.民2】	
		ニューギニアヤリガタリクウズムシ拡散防止	拡散防止の継続・普及啓発	父島二見港周辺において、属島への拡散を防止するため、駆除、監視、普及啓発を継続。【東京都】	拡散防止対策の試行【No.環9】	拡散防止の継続【No.環9】	拡散防止の継続

■:現時点で概ね完了 ■:H24年度末時点までに完了予定 赤字:アクションプラン修正箇所

(1)父島列島(2/2)

凡例：環境省事業 林野庁事業 東京都事業 小笠原村事業 その他[共同実施事業等]

島名	対策の方向性	取組の項目	推薦後の短期目標 (~H24年度末)	対策の内容	事業進捗		
					平成21年度	平成22年度	平成23年度予定
兄島	乾性低木林の保全	ノヤギ駆除	-	-	残存個体の確認調査【No.都1】		柵の撤去
		クマネズミ駆除	根絶完了	周辺属島も含めて根絶を完了。【環境省】	事前調査、駆除実施【No.環5】	モニタリング【No.環5】	モニタリングの継続
		モクマオウ等駆除	エリア排除完了・拡大	台地上緩傾斜地のエリア排除を目指して、駆除を実施。【林野庁】	駆除試験の実施、モニタリング【No.環11】	モニタリング継続【No.環11】	モニタリングの継続
		ギンネム駆除	エリア排除完了	平成22年度着手、平成24年度までに台地上緩傾斜地のエリア排除を目指して、駆除を実施。【林野庁】	外来植物分布図等の作成【No.林1】		中長期計画の作成
		シチヘンゲ駆除	エリア排除完了	平成22年度から台地上緩傾斜地において、モクマオウ等の駆除と併せ小面積の試験的な駆除とその後のモニタリングを実施。【林野庁】 ボランティア・NPO・各機関連携のもと滝之浦の駆除を実施。	駆除、駆除前後モニタリング等【No.林3】	駆除、駆除前後モニタリング等継続【No.林3】	駆除継続
		希少植物種の保護	(アクションプランに記載なし)		外来植物分布図等の作成【No.林1】		中長期計画の作成
					駆除前モニタリング【No.林3】	駆除【No.林3】	駆除継続
	陸産貝類の生息地の保全	クマネズミ駆除	根絶完了	再掲	駆除試験の実施、モニタリング【No.環11】	継続【No.環11】	モニタリングの継続
	アカガシラカラスバトの生息地の保全	クマネズミ駆除	根絶完了	再掲	生育状況調査、域外系統保存等【No.環】	生育状況調査、域外系統保存等【No.環15】	生育状況調査等継続
	その他	オガサワラハンミョウ・トンボ類の生息状況把握	(アクションプランに記載なし)		残存個体の確認調査【No.環3】		
弟島	ムニンヒメツバキ林の保全	アカギ駆除	-	-	生息状況把握等【No.環14】	調査等の継続【No.環14】	調査等の継続
		ノヤギ駆除	根絶完了	根絶を目指して駆除を継続。【東京都】	最終モニタリング【No.環2】		
		クマネズミ駆除	根絶完了	周辺属島も含めて根絶を完了。【環境省】	排除継続【No.都1】	排除継続【No.都1】	残存個体の確認調査
		モクマオウ・ギンネム等駆除	エリア排除着手	各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】 国有林に生育する外来種(モクマオウ等、ギンネム)について、分布状況の調査等を行うとともに兄島等におけるギンネム等の駆除結果に基づきエリア排除に向けた検討を行い、22年度から着手。【林野庁】	事前調査、駆除実施【No.環5】	モニタリング【No.環5】	南部での個体数管理
	固有トンボ類5種など固有昆虫類の生息地の保全	ウシガエル駆除	-	-	外来植物分布図等の作成【No.林1】		中長期計画の作成
		ノブタ駆除	-	-	分布調査、駆除前モニタリング【No.林3】	駆除、駆除前後モニタリング等【No.林3】	駆除継続
		止水環境の回復	止水環境の整備	トンボ類等の水生昆虫類のモニタリング、回復を図るための止水環境の整備を継続。【環境省】	駆除試験の実施、モニタリング【No.環11】	モニタリングの継続【No.環11】	モニタリングの継続
	アカガシラカラスバトの生息地の保全	モクマオウ等駆除	エリア排除着手	再掲	残存個体の確認調査【No.環8】	残存個体の確認調査【No.環8】	残存個体の確認調査継続
		クマネズミ駆除	根絶完了	再掲	残存個体の確認調査【No.環4】	残存個体の確認調査【No.環4】	
		ノネコ排除	排除継続	根絶を目指して排除を継続。【環境省】	人工池の設置【No.環8】	人工池の維持管理【No.環8】	維持管理の継続
西島	固有種等に配慮した生態系管理	クマネズミ駆除	根絶完了	根絶を完了。【環境省】	生息状況把握等【No.環14】	調査等の継続【No.環14】	調査等の継続
		モクマオウ・ギンネム駆除	駆除着手	各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】 国有林については、平成22年度からNPO等と整備協定を締結しモクマオウ等の駆除を推進。【NPO、林野庁】	試験捕獲の実施【No.環3】	試験捕獲継続、モニタリング【No.環3】	モニタリングの継続
	海鳥類の繁殖地の保全	クマネズミ駆除	-	-	駆除実施【No.環5】	モニタリング【No.環5】	モニタリングの継続
		モクマオウ・ギンネム駆除	駆除着手	兄島等におけるギンネム等の駆除結果に基づきエリア排除に向け、試験的な駆除を含めた検討を実施。【林野庁】	外来植物分布図等の作成【No.林1】		中長期計画の作成
東島	固有種等に配慮した生態系管理	クマネズミ駆除	根絶完了	兄島・弟島終了後、対策を検討。【環境省】	駆除・モニタリング継続【No.都6、7】	駆除・モニタリングの継続	
		モクマオウ・ギンネム駆除	駆除着手	南島において、侵略性の高い外来植物種の駆除を継続。【東京都、林野庁、小笠原村、NPO】	駆除の実施【No.村1】	左記の継続	
南島	固有種等に配慮した生態系管理	クマネズミ駆除	根絶完了				

■:現時点で概ね完了 ■:H24年度末時点までに完了予定 赤字:アクションプラン修正箇所

(2)母島列島

凡例：環境省事業 林野庁事業 東京都事業 小笠原村事業 その他[共同実施事業等]

島名	対策の方向性	取組の項目	推薦後の短期目標 (~H24年度末)	対策の内容	事業進捗		
					平成21年度	平成22年度	平成23年度予定
母島	湿性高木林やモクダチバナ林、母島列島型乾性低木林の保全	アカギ駆除	駆除継続	中長期計画「外来植物(アカギ)除去計画」等に基づく駆除やモニタリングを継続。 【林野庁】 西台・衣箱の民有地からの駆除を継続し、庚申塚地区に着手。【環境省】	駆除継続、駆除前後モニタリング等【No.林3】 駆除の継続【No.環10】 ボランティアによる駆除(桑ノ木山等)【No.林5】 外来植物分布図等の作成【No.林1】	駆除前後モニタリング等継続【No.林3】 駆除の継続【No.環10】	駆除継続 駆除の継続 ボランティアによる駆除 中長期計画の作成
		ガジュマル駆除	エリア排除着手	各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	駆除前モニタリング【No.林3】 外来植物分布図等の作成【No.林1】	駆除、駆除後モニタリング【No.林3】	駆除継続 中長期計画の作成
		モクマオウ・ギンネム駆除	駆除後のモニタリング継続	モクマオウ等の駆除区域への外来種の侵入状況等のモニタリングを継続(南崎地域)。【林野庁】 各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	駆除前後モニタリング【No.林3】 外来植物分布図等の作成【No.林1】	駆除前後モニタリング【No.林3】	駆除継続 中長期計画の作成
		希少植物種の保護	(アクションプランに記載なし)		生育状況調査、域外系統保存等【No.環】	生育状況調査、域外系統保存等【No.環15】	生育状況調査等継続
	オガサワラシジミなど固有昆虫類の生息地の保全	グリーンアノール駆除	新規排除エリアの設定 希少昆虫繁殖地でのポイント排除	新規自然再生区を設定(地域未定)。【環境省】 オガサワラシジミの繁殖地において、繁殖時期のポイント排除を継続(地域未定)。【環境省】	排除の継続、新規再生区の検討【No.環7】	排除の継続【No.環7】	排除の継続
		オオヒキガエル駆除	エリア排除完了	概ねエリア排除完了(南崎運池地区)。【環境省】	排除の継続、新規再生区の検討【No.環7】	排除の継続【No.環7】	排除の継続
		オガサワラシジミ等生息地モニタリング	モニタリングの継続	昆虫類を中心とした生態系回復モニタリング及びシジミ等の保護増殖対策を継続。【環境省、オガサワラシジミの会】	生息状況把握等【No.環14】	調査等の継続【No.環14】	調査等の継続 外来植物駆除等
	オガサワラカラヒワや海鳥類の生息地の保全	ノネコ排除	(中長期的に対応)	(全島排除へ向けたスケジュールと調整しつつ、継続して検討)	モニタリング継続【No.環2】	モニタリング継続、全域調査【No.環2】	調査等の継続
		クマネズミ駆除	(中長期的に対応)				
		オガサワラカラヒワ生息環境調査	(アクションプランに記載なし)		固有鳥類生息環境調査等【No.林10】	調査継続【No.林10】	活動の継続
	アカガシラカラスバトの生息地の保全	アカギ駆除	駆除継続	再掲	再掲		
		ノネコ排除	(中長期的に対応)	再掲	再掲		
		クマネズミ駆除	(中長期的に対応)	再掲	再掲		
	陸産貝類の生息地の保全	食餌植物の植栽	アカギ駆除継続	稚幼樹等の駆除等を継続。【林野庁】			
		アカガシラカラスバト生息環境調査	(アクションプランに記載なし)		固有鳥類生息環境調査等【No.林9、10】	調査継続【No.林9、10】	活動の継続
	その他の対策	固有陸産貝類の保全方針の検討	具体的対策に着手	検討会での保全方針の検討結果を踏まえて、必要に応じ具体的な対策を実施。【環境省】	生息状況把握、保全方針の検討【No.環11】		
		ノネコ排除	条例の適正な運用による管理の徹底	飼いネコ・ノネコ対策の実施(95%以上の不妊去勢率達成・60%以上のマイクロチップ挿入、条例改正)。【小笠原村・小笠原ネコに関する連絡会議・東京都獣医師会・NPO】	集落地域における捕獲【No.環2】	全域調査【No.環2】	調査等の継続
		ニューギニアヤリガタリクウズムシ駆除	拡散防止の継続・普及啓発	母島及び属島への拡散を防止するため、都レンジャー等による普及啓発、ははじま丸下船時の靴底の洗浄対策等を継続。【東京都】	普及啓発・利用者指導【No.都2】	普及啓発・利用者指導【No.都2】	利用者指導等の継続
向島	母島列島型乾性低木林の保全	モクマオウ等駆除	エリア排除着手	空中写真による外来樹種の分布状況の把握、生息状況等の調査結果により平成23年度から着手予定。【林野庁】	分布調査、駆除前モニタリング【No.林3】 空中写真撮影【No.林1】	駆除、駆除前後モニタリング等【No.林3】 外来植物分布図等の作成【No.林1】	駆除継続 中長期計画の作成
		クマネズミ駆除	根絶完了	父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】		生息状況調査【No.環5】	調査継続、駆除手法検討
	固有鳥類等の生息地の保全	オガサワラカラヒワ等生息環境調査	(アクションプランに記載なし)		固有鳥類生息状況調査等【No.林10】	調査継続【No.林10】	活動の継続
姉島	母島列島型乾性低木林の保全	モクマオウ等駆除	現況把握	外来種(モクマオウ、ギンネム等)の分布状況の調査を実施。【林野庁】	空中写真撮影【No.林1】	外来植物分布図等の作成【No.林1】	生育状況把握、駆除手法検討
		クマネズミ駆除	根絶完了	父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】		生息状況調査【No.環5】	調査継続、駆除手法検討
妹島	母島列島型乾性低木林の保全	ギンネム等駆除	現況把握	外来種(モクマオウ、ギンネム等)の分布状況の調査を実施。【林野庁】	空中写真撮影【No.林1】	外来植物分布図等の作成【No.林1】	生育状況把握、駆除手法検討
		希少植物種の保護	(アクションプランに記載なし)		生育状況調査、域外系統保存等【No.環】	生育状況調査、域外系統保存等【No.環15】	生育状況調査等継続
姪島	固有鳥類等の生息地の保全	クマネズミ駆除	根絶完了	父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】		生息状況調査【No.環5】	調査継続、駆除手法検討
		母島列島型乾性低木林の保全	ギンネム等駆除	現況把握	外来種(モクマオウ、ギンネム等)の分布状況の調査を実施。【林野庁】	空中写真撮影【No.林1】	外来植物分布図等の作成【No.林1】
平島	固有種等に配慮した生態系管理	クマネズミ等駆除	根絶完了	父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】		生息状況調査【No.環5】	調査継続、駆除手法検討
		アカギ駆除	-	-			
平島	固有種等に配慮した生態系管理	モクマオウ等駆除	現況把握	外来種(モクマオウ、ギンネム等)の分布状況の調査を実施。【林野庁】	空中写真撮影【No.林1】	外来植物分布図等の作成【No.林1】	生育状況把握、駆除手法検討
		クマネズミ等駆除	根絶完了	父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】		生息状況調査【No.環5】	調査継続、駆除手法検討

■:現時点で概ね完了 ■:H24年度末時点までに完了予定

(3) 聳島列島

凡例： 環境省事業 林野庁事業 東京都事業 小笠原村事業 その他(共同実施事業等)

島名	対策の方向性	取組の項目	推薦後の短期目標 (~H24年度末)	対策の内容	事業進捗		
					平成20年度	平成21年度	平成22年度予定
聳島	モクダチバナ林を中心とした生態系管理	ギンネム駆除	根絶完了	ギンネム、タケ・ササ類の駆除を継続し、残存林保全に向けて順応的管理を実施。【東京都】	生育状況調査、排除継続【No.都4】 空中写真撮影【No.林1】	調査、排除継続【No.都4】 外来植物分布図等の作成【No.林1】	駆除・モニタリングの継続
		タケ・ササ類駆除	根絶完了	ギンネム、タケ・ササ類の駆除を継続し、残存林保全に向けて順応的管理を実施。【東京都】	生育状況調査、排除継続【No.都4】 空中写真撮影【No.林1】	調査、排除継続【No.都4】 外来植物分布図等の作成【No.林1】	駆除・モニタリングの継続
	固有昆虫類の生息地の保全	ガジュマル駆除	エリア排除着手	各機関連携のもと駆除に着手・完了。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	空中写真撮影【No.林1】	外来植物分布図等の作成【No.林1】	
		クマネズミ駆除	根絶完了	聳島での根絶を完了。【環境省】	駆除実施【No.環5】	モニタリング【No.環5】	モニタリングの継続
	アホウドリ類3種の繁殖地の保全・形成	アホウドリ新繁殖地形成	継続	繁殖期に、アホウドリの繁殖地である伊豆諸島鳥島から聳島までヒナを移送・放鳥し、巣立ちまで人工飼育を継続。【環境省】	繁殖地形成事業継続【環】	繁殖地形成事業【環】	繁殖地形成事業
		アホウドリ類繁殖状況調査	(アクションプランに記載無し)		繁殖状況調査【No.都13】	繁殖状況調査【No.都13】	調査の継続
		シチヘンゲ駆除	現況把握	空中写真による外来樹種の分布状況の把握。【林野庁】 各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	空中写真撮影【No.林1】	外来植物分布図等の作成【No.林1】	
北ノ島	海鳥類の繁殖地の保存 固有種等に配慮した生態系管理				事前調査【No.環5】 空中写真撮影【No.林1】	事前調査【No.環5】 外来植物分布図等の作成【No.林1】	駆除手法の検討
		外来植物等駆除	現況把握	空中写真による外来樹種の分布状況の把握。【林野庁】			
煤島	海鳥類の繁殖地の保全 固有種等に配慮した生態系管理	ギンネム駆除	根絶完了	土壌流出対策とともに、ギンネムなどの外来種の駆除を継続し、土壌流出防止及び残存林保全むけて順応的管理を実施。【東京都】	調査、土壌流出防止、排除【No.都4、5】 空中写真撮影【No.林1】	継続実施【No.都4、5】 外来植物分布図等の作成【No.林1】	左記の継続
		タケ・ササ類駆除	根絶完了	土壌流出対策とともに、ギンネムなどの外来種の駆除を継続し、土壌流出防止及び残存林保全むけて順応的管理を実施。【東京都】	調査、土壌流出防止、排除【No.都4、5】 空中写真撮影【No.林1】	継続実施【No.都4、5】 外来植物分布図等の作成【No.林1】	左記の継続
	クマネズミ駆除	根絶完了	父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】	事前調査【No.環5】	事前調査【No.環5】	駆除手法の検討	
嫁島	海鳥類の繁殖地の保全 固有種等に配慮した生態系管理	タケ・ササ類駆除	駆除着手	空中写真による外来樹種の分布状況の把握。【林野庁】 平成22年度からNPO等と整備協定を締結しタケ・ササ類の駆除を推進。【NPO、林野庁】	空中写真撮影【No.林1】	外来植物分布図等の作成【No.林1】	
		クマネズミ駆除	根絶完了	父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】	事前調査【No.環5】	事前調査【No.環5】	駆除手法の検討
西之島	現況把握の実施	現況把握のための調査の実施	現況把握	現況把握により外来種等の侵入状況を監視。【林野庁】	空中写真撮影【No.林1】	外来植物分布状況把握【No.林1】	
北硫黄島	現況把握の実施	現況把握のための調査の実施	(中長期的に対応)		アカガシラカラスバト調査【No.都9】 空中写真撮影【No.林1】	ハト調査【No.都9】 外来植物分布図等の作成【No.林1】	調査の継続
	海鳥類の繁殖地の保全	ネズミ類駆除	(中長期的に対応)				
南硫黄島	現況把握の実施	現況把握のための調査の実施	(中長期的に対応)		空中写真撮影【No.林1】	外来植物分布図等の作成【No.林1】	

■:現時点で概ね完了 ■:H24年度末時点までに完了予定

生態系保全アクションプラン 平成22年度の進捗状況及び平成23年度実施計画(案) (詳細事業内容)

実施機関：環境省関東地方環境事務所

事業項目			平成21年度		平成22年度		平成23年度	課題・備考
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業進捗	事業内容(案)	
ノヤギ・ネコ	環1 外来動物対策調査 (ノヤギ・ネコ侵入防止柵検討)	父島	一部区間のノヤギ・ネコ柵設置工事を完了。 ノネコ排除に向けた情報収集と父島内での試験捕獲開始 排除区設定に関わる調査・事前モニタリング 侵入防止柵内のノヤギ排除計画及びモニタリング計画を立案する。	環境配慮作業を実施しながら、ハト繁殖開始までの期間に南側ラインと都道沿い一部区間の施工を完了。 山域ネコ排除計画を策定し、効果測定のためネコ生息のモニタリングを開始した。また排除区周辺を含めた父島内でのノネコの試験捕獲を開始した。 アカガシラカラスバト、オガサワラノシリ、クマネズミの事前モニタリングを開始し、柵路線上の希少植物調査等を踏まえて環境配慮面から施工に関わる留意事項の整理と技術指導を実施。 侵入防止柵内のノヤギ排除計画、ノヤギ及び植生のモニタリング計画を立案した。	排除区拡張区間の検討と、ノヤギ・ネコ柵設置工事を完了。 排除区設定に関わる調査・モニタリング(継続) 排除区および父島山域におけるノネコ捕獲およびモニタリング ノヤギ及び植生モニタリングを開始する。また、侵入防止柵完成後にノヤギ排除を開始する。 住民等への周知	ノヤギ侵入防止柵については、大部分が完成の見込み。 外来植物、希少植物等について、事前モニタリングを実施。 H22年より、排除区及び父島山域による捕獲を開始。H22年度に60頭以上を捕獲。 ノヤギ及び植生モニタリングを開始した。また侵入防止柵完成前であるが、ノヤギ排除を開始した。 ノヤギ排除の実施に関しては、島内関係機関への説明、住民説明会の開催、チラシの配布、看板の設置などを実施して周知した。	ノネコ柵部分の設置(継続) 外来植物、希少植物等のモニタリングの実施(継続) 捕獲を継続 ノヤギ排除の実施(継続)、ノヤギ及び植生モニタリング(継続) 住民等への周知	「東平ノヤギ・ネコ排除策設定に関する検討会」において検討
ノネコ	環2 (環2の一環) (環9の一環) (ネコ侵入防止柵設計)	母島	南崎先端部排除区モニタリング実施。 南崎広域排除区整備に関するモニタリング 集落地域における飼育ネコ・ノラネコ対策	オナガミズナギドリ繁殖規模がさらに増加し、海鳥繁殖場として復元中。カツオドリについては営巣が行われないうまま。 南崎半島部でのネコ捕獲とルートをセンサスを実施し、この地区においてネコ捕獲後には高密度で生息していないことが判明。 村事業の支援として母島沖港周辺においてノラネコ13頭を捕獲。	南崎先端部排除区モニタリング実施。 母島におけるノネコ生息のモニタリング開始	21年度に引き続き、モニタリング及び周辺域におけるノネコの排除を実施。	継続して実施	
	環3 外来ほ乳類対策	兄島・弟島	踏査および自動撮影機等による生息状況調査を実施。 弟島における試験捕獲を実施。	兄島では、ノネコの新しい痕跡及び個体の発見に至らなかった。弟島では、島内全域に痕跡が確認され、特に北部と南部に痕跡が多く確認された。 カゴワナによる試験捕獲の結果、弟島北部で2頭捕獲された。	踏査および自動撮影機による残存個体の確認調査を継続する。 弟島における試験捕獲を継続する。	兄島では、ノネコの新しい痕跡等は確認されなかった。調査開始後3年経過したが、新しい痕跡が確認されていないことから、残存している可能性は極めて低いと思われる。 弟島では、自動撮影機の使用や踏査による痕跡調査を行ったが、H22年4月以降、個体や新しい痕跡が確認されていない。	モニタリングを縮小する。兄島では、他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。 弟島では、引き続き残存個体の有無を確認するモニタリング(自動撮影機の使用および踏査)を行う。	
ノブタ	環4 外来動物対策調査 (ノブタ駆除の検討と先行実施)	弟島	踏査および自動撮影機等による残存個体の確認調査を継続。 探索犬による駆除作業の実施。 モニタリング調査の継続(陸産貝類)。	踏査および自動撮影機による痕跡等調査の結果ではノブタの痕跡および個体の発見に至らなかった。 探索犬による個体の探索を行ったが、残存個体の確認に至らなかった。これらの状況から、環境省により、弟島のノブタの根絶が宣言された。 陸産貝類調査の結果、種構成についてはノブタが生息していた時期の傾向とほぼ同程度であった。一方、ノブタが生息していなかった弟島南端部では、固有種が高密度に生息しており、今後生息域を拡大することが期待される。	踏査および自動撮影機による残存個体の確認調査を継続する。 残存個体が確認された場合、銃器などを使用して効率的に排除する。	利用頻度が高かったガジュマルの周辺での自動撮影機および踏査による痕跡調査を行ったが、新しい痕跡等は確認されなかった。	モニタリングを縮小する。他分野の調査等と協力し、残存個体の情報が得られた場合、捕獲等の対策を速やかに行う。	

事業項目			平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	課題・備考
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業進捗	事業内容(案)	
クマネズミ	環5 外来動物対策調査 (聳島・東島・兄島 排除計画検討)	聳島・東 島、兄島	聳島、東島のネズミ類生 存状況モニタリング調査 および生存個体発見時の 緊急的対応の実施 兄島、弟島における排除 試験実行のための事前調 査(ネズミ類生息調査、オ ガサワラノスリ生息調査、 ネズミ類駆除計画策定な ど) 兄島、弟島などでの排除 試験の実施 駆除によって生息に影響 が生じることが予想される オガサワラノスリ等のモニ タリング調査を実施	駆除実施地域である聳島、西島においてク マネズミの生息を確認 現地での事前調査、海外専門家、国内研究 者からのヒアリングなどにより、聳島、兄島、 弟島、西島、東島などでの駆除実施計画を策 定 聳島、兄島、弟島、西島、東島などで殺鼠剤 (ダイファシノン製剤)の空中散布による駆除 実施 兄島と弟島で合計11つがいのオガサワラノ スリの繁殖を確認。	聳島、兄島、弟島、西島、東島など 駆除実施地域でのネズミ類生息状 況のモニタリング調査 駆除によって影響が生じる可能性が あるオガサワラノスリ、アホウドリ類 などのモニタリング調査 駆除の効果を把握するための陸産 貝類、鳥類などの生息状況調査 母島列島など、駆除未実施地域の 事前調査	弟島にてクマネズミの生息を確認、その他の駆除 実施島嶼ではネズミ類の生息に関する情報が得ら れていない 弟島、兄島、東島でのオガサワラノスリの繁殖状況 を調査し、駆除前に比べて繁殖つがい数が減少し ていることを確認した 兄島の陸産貝類の生息状況を調査し、近年続いて いた被害率の上昇が停滞し、生息密度の上昇が示 唆された 母島属島の向島、平島、姉島、妹島、姪島でネズミ 類の生息状況調査を実施し、すべての島でドブネ ズミの生息を確認した(クマネズミの確認は無し) 兄島、弟島でネズミ類の生息状況調査を実施し、ク マネズミが高密度に生息している事を確認	既駆除地域でのモニタリング調査の 継続 生息が確認された弟島から兄島へ の再侵入リスクを低減する対策とし て、弟島南部での個体数管理を実 施。 非標的種の生息状況のモニタリング の継続。陸産貝類等、ネズミ類による 被害を受けていた生物の回復状況を モニタリング。 駆除方法の改善策を検討するととも に駆除未実施地域(母島属島、媒島、 嫁島)の事前調査の継続	「ネズミ類対策検討会」にお いて検討
グリーンア ノール	環6 外来生物重点防除 事業 (父島アノール対 策)	父島	重点防除区域を中心に、 グリーンアノールの捕獲 及び生息状況のモニタ リングを継続する。 これまでの調査で明らか になった、山地から重点防 除区域にアノールが分散 してくる侵入経路「アノ ールコリドー」等において重 点的な対策を継続して実 施。 属島へのアノールの侵入 に対する早期対処の作業 を実施する。 オオヒキガエルの防除方 法、体制等を検討する。 島民等に対するアノール 防除事業の普及啓発を実 施する。	・二見港周辺の重点防除区域及び移動経路 となる地域において、専属捕獲員により、捕 獲開始から 2010 年 3 月末までにアノール 5,467 個体を捕獲し、防除実施前と比べ密度 を 24.5%にまで減少させた。 ・防除区域において、ボランティア捕獲員、延 べ 19 人による捕獲を継続した。 ・重点防除区域にアノールが分散してくる経 路「アノールコリドー」周辺やアノールが生息 しやすい場所を特定し、ギンネム等の草刈 等、防草シート設置など植生管理を実施し、 効果が得られた。 ・関係者への聞き取り等の結果、属島への侵 入は確認されなかった。また、アノール侵入 に備えた初動体制の検討を行い、捕獲用具 を設置した。 ・オオヒキガエルが属島に移入するのを防ぐ ため、港湾周辺に防除区域を設定した。防除 区域内では集中捕獲を実施し、成体・幼体 151 個体を捕獲した。 ・外来動物対策に関するパンフレットを 5,000 部作成し、小笠原村、観光協会等に配布し た。また、父島・母島に全戸配布を行った。 併せて英語版を 1,500 部作成し、小笠原村、 小笠原村観光協会等に配布した。 ・業務の進捗を踏まえ、過去に作成した外来 両生爬虫類のパンフレットの改訂を行い、各 3,500 部作成した。 ・業務関連の画像、映像素材の収集を行っ た。 ・事業説明会・講演会等実施した。	重点防除区域を中心に、グリーンア ノールの捕獲及び生息状況のモニタ リングを継続する。 引き続き重点防除区域にアノールが 分散してくる侵入経路「アノールコリ ドー」等において重点的により効果 的な対策を実施する。 属島へのアノールの侵入に対する 早期対処の作業を実施し、普及啓 発を図る。 オオヒキガエルの防除方法、体制等 を検討し、生態系影響を評価する。 島民等に対する業務の普及啓発を 実施し、IUCN による視察等への対応 可能な外来動物対策資料を作成す る。	・二見港周辺の重点防除区域及び移動経路となる 地域において、専属捕獲員により、捕獲開始から 2010 年1月末までにアノール 6,658 個体を捕獲し た。2010 年 10 月の生息状況は、107 個体/ha であ った。防除区域外に比べ、重点防除区域での密度 は 3 割に低減することができている。 管理の軽減と錯誤捕獲を防止するトラップを作成 ・試験捕獲を行い、効果を確認した。また、簡易フェ ンスとトラップを併用する手法の試行により、捕獲 の効率化を検討した。港湾付近の植生管理を実施 した。 ・関係者への聞き取り等の結果、アノールの属島へ の侵入は確認されていない。また、2010 年 7 月に オオヒキガエル 1 個体が兄島滝ノ浦で捕獲された が、その後、侵入個体は確認されていない。 ・オオヒキガエルが兄島で発見されたことから兄島 での緊急調査を実施した。その後は発見されておら ず、現在もモニタリングを継続中。 ・属島への移入を防ぐため、港湾周辺に防除区域 を設定した。防除区域内では集中捕獲を実施し、成 体・幼体 547 個体を捕獲した。 ・IUCN 視察者、同行者に解説するための外来動物 対策資料について英語版、日本語版を作成した。 ・外来動物対策について解説した展示パネルを小 笠原、本土用に制作した。 ・過去に作成したパンフレット「私たちにできること」 を改訂中。 ・業務関連の画像、映像素材を収集中。 ・事業説明会・講演会実施した(2010 年 10 月)。 警察によって捕獲された父島扇浦の畑で野生化し たグリーンイグアナ(、1 個体)の剖検を行った。	重点防除区域を中心に、グリーンア ノールの捕獲及び生息状況のモニタ リングを継続する。 引き続き植生管理等を行うとともに、 重点防除区域にアノールが分散して くる侵入経路「アノールコリドー」等 において重点的により効果的な対策 を実施する。 属島へのアノールの侵入に対する 早期対処の作業を実施し、普及啓 発を図る。 オオヒキガエルの防除方法、体制等 を検討し、生態系影響を評価する。 兄島でオオヒキガエルが発見された ことから、モニタリングを継続する。 島民等に対する業務の普及啓発を 実施し、普及啓発用展示物の整備 を行う。	・兄島においてのオオヒキガ エルの侵入経路が不明であ るが、アノール同様に入島前 の利用者、研究者等の荷物 等の確認の水際対策の徹底 が必要である。今回の兄島の オオヒキガエルの侵入のよう にアノール等外来生物が侵入し た場合の緊急的な駆除方法はある か。万が一不測の事態となっ た際の緊急対応としてなにかあれ ば科学的な助言をいただきたい。

事業項目			平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	課題・備考
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業進捗	事業内容(案)	
グリーンアノール オオヒキガエル	環7 外来両生爬虫類対策事業 (母島アノール対策事業)	母島	引き続きアノール、オオヒキガエルの排除を実施する。 新たな自然再生区として南崎地域を検討するため、動物相の事前調査を行う。 自然再生区の環境を整え、固有昆虫類の回復を図る。	・新夕日ヶ丘自然再生からのアノールの排除作業を継続し、アノール密度を捕獲前の 20% 程度まで低下させた(平成 22 年 3 月までの捕獲総数は約 2450 個体)。 ・南崎の草原ではアノールのモニタリングを継続した。蓮池ではオオヒキガエルの繁殖は確認され、繁殖阻止が継続している。 ・各地域では昆虫類のモニタリングを実施した。 ・南崎地域の土壌動物相を調査し、保全すべき動物群の分布域を明らかにした。これに従い、防除柵を設置する際の予定地を検討した。 ・オガサワラセセリの生息が確認された。 ・植樹した在来樹の管理を行っている。生育状態は良好で、希少昆虫の生息環境は向上している。	自然再生区においてアノールとオオヒキガエルの排除作業を継続する。 外来種除去による影響緩和に伴う昆虫類及び土壌動物等の回復状況をモニタリングする。 自然再生区以外の希少昆虫等の重要な生息場所でも、アノールやオオヒキガエルの防除を行い、生態系への影響を緩和する。	・新夕日ヶ丘ではアノールの密度は捕獲開始前の 10% 程度にまで低下した。オオヒキガエルの生息は確認されなかった。 ・南崎の草原部でアノールのモニタリングと駆除を実施した。オオヒキガエルは確認されていない。 ・新夕日ヶ丘では、一部の昆虫類の個体数が増加傾向にあることが示唆された。また、植栽した在来樹には、オガサワラシジミの飛来及び産卵が確認された。 ・南崎では草原部のオガサワラセセリの生息数は比較的大きく変動することが示された。 ・蓮池では、踏査による調査を実施し、オオヒキガエルの繁殖阻止を確認した。 ・石門等でアノールの防除を行った。	自然再生区においてアノールとオオヒキガエルの排除作業を継続する。 外来種除去による影響緩和に伴う昆虫類及び土壌動物等の回復状況をモニタリングする。また、アカギ対策等を実施し、在来昆虫類等に適した環境に再生する。 自然再生区以外の希少昆虫等の重要な生息場所でも、アノールやオオヒキガエルの防除を行い、生態系への影響を緩和する。	「今年度より新夕日 WG を設置」WG で検討。
ウシガエル	環8 外来両生爬虫類対策事業 (弟島ウシガエル駆除)	弟島	捕獲カゴ、ボイスレコーダを用いた根絶確認のモニタリングを継続する。 トンボ類の回復を図るための安定した止水環境として、人工池を設置する。	トラップによる捕獲作業、ボイスレコーダを用いたモニタリングを継続した。ウシガエルは全く捕獲されず鳴き声も記録されないことから、環境省により根絶が宣言された。 トンボ類の人工繁殖池を10面設置した。その後、池の周囲を改修し、より自然に近い環境を創出した。人工池内で固有トンボの幼虫が確認された。	モニタリングを継続する。万一、残存個体が発見された場合は早急に対処する。 人工池を維持管理し、固有トンボ類の生息場所を確保する。	音声モニタリング調査を継続して行ったが、ウシガエルの生息は確認されなかった。残存している可能性は極めて低いと考えられる。 トンボ類の繁殖池を維持管理した。固有トンボ類がこれを利用して繁殖しているのを確認した。	監視を継続する。万一、残存個体の生息が疑われる場合は適切に対処する。 継続して人工池の管理を行って、固有トンボ類の生息場所を確保する。	
ニューギニアヤリガタリクウズムシ 固有陸産貝類	環9 ブラナリア対策・陸産貝類保全調査 (~H18年度:小笠原国立公園生態系特定管理手法検討調査)	父島	重要地域のブラナリアの分布調査を実施 エリア防衛のための具体的な対策(ブラナリア類進入防止柵の実地試験等)を試行し、侵入防止設備の事業実施計画及びモニタリング計画を作成する。	平成 20 年度に引き続き父島における陸産貝類・ブラナリア類のモニタリング調査を行った。 植生調査し、平成 20 年度業務で検討を行った侵入防止柵の設置適地(域外保全先適地)を探索した。 上記設置適地の地形等を踏まえ、柵の実地設計を行った。 また、柵内からのブラナリアの除去手法について実験を行い検討した。	21 年度業務において固有陸産貝類の急激な減少が確認された夜明山地域においてブラナリアの侵入状況確認調査を実施 電気柵を設置し、柵内部のブラナリア排除実験及び陸産貝類の逸出防止等の実験を行い、維持管理方法を確認。希少陸産貝類の域外保全エリアにおける保全管理計画を作成 室内飼育マニュアルの作成、夜明山地域におけるキノボリカタマイマイ及びカタマイマイの一斉捕獲、室内飼育の開始 上記を踏まえた、再導入区域での保全策や管理手法の検討	夜明山地域を対象としてブラナリアの侵入状況確認調査を実施中。ブラナリアは確認されていない 扇浦地区内国有林に電気柵(柵内面積は約 20 m ²)の設置を完了。 柵内部のブラナリア排除実験を実施中。 平成 23 年 1 月にカタマイマイ 15 個体を捕獲、室内飼育を開始。キノボリカタマイマイについては捕獲されていない。 検討中	重要地域のブラナリアの分布調査を実施 電気柵内で希少陸産貝類の屋外飼育を開始。 室内飼育の実施。飼育対象種の拡大 生息地保全についての対策を検討・実施	「ブラナリア対策・陸産貝類検討会」において検討 ・再導入地域のブラナリアの個体数の低減方法及びその効果の検証。 ・その他の陸産貝類の絶滅危惧状況の把握。 ・侵入抑制のため道路についてはブラナリア除去装置等を各機関設置しているが、道路以外からの侵入については有効な対策が無いのが現状である。このままであれば父島での陸産貝類の絶滅も危惧されるが有効と考えられる対処方法について助言をいただきたい。
アカギ	環 10 アカギ対策検討調査	母島、弟島	母島の椰子浜、長浜以北(国立公園内)からの成木根絶を目指した駆除試験の継続。 上記駆除試験実施個所のモニタリング	母島庚申塚地域民有地において駆除試験を実施。実施面積は 39.2ha。東港入り口から二十丁峠手前にかけての都道両脇を主体とする範囲。 駆除実施箇所のモニタリングとして、植生、デリス、薬剤成分の残留、イェシロアリを実施。母島長浜トンネル~東港にかけて局地的にイ	母島の椰子浜、長浜以北(国立公園内)からの成木根絶を目指した駆除試験の継続。 上記駆除試験実施のための用地確保 既往試験地でのモニタリングと駆除対策の追加実施	母島北部私有地における駆除試験用地の確保 母島北部地域における総合的アカギ駆除試験の実施 希少動植物再生のための試験駆除実施 既往試験地のモニタリング 父島での優先的実施個所の提案	(実施中) 母島東台地区民有地において、承諾が獲得できた箇所において駆除試験を実施。実施面積は 5ha。また、二十丁峠付近において、駆除跡に繁茂してきたアカギ実生の抜き取り処理を実施。 駆除実施箇所のモニタリングとして、植	・民有地については、土地登記記者が高齢化しており、戦前居住していた方などは連絡の追跡が難しく、こうした一部の土地で駆除が実施できない状況となっており、こうした土地がコアとなって種子の供

事業項目			平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	課題・備考
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業進捗	事業内容(案)	
			上記駆除試験実施のための用地確保 既往試験地でのモニタリングの実施 アカギ対策の普及啓発活動の実施	エシロアリが侵入しており、監視体制を整備。駆除試験地確保のため、地権者の探索及び承諾書の取得作業を実施。承諾書を取得できたのは、筆数310、地籍面積694,475m ² 、32名。承諾書未獲得の8名は所在不明による未交渉が主な理由。 既往試験地でのモニタリング調査を実施。弟島では少数ながら残存個体や実生を確認(処理済み)。母島では、再侵入が確認され、今後の再度処理の実施必要性を確認。 農地における島民との協同駆除の実施(母島評議平)。横浜開港記念イベントにおけるしづや木工塾との協同でのアカギ箸ワークショップの開催(島外初)。	固有昆虫やアカガシラカラスバト等の希少種の生息環境の保全のための駆除試験及びモニタリングの実施。 父島東平地区の主に民有地、都市地における外来植物駆除の実施。 「小笠原地域自然再生事業外来ほ乳類対策調査業務」との連携による実施 アカギ対策の普及啓発活動の実施		生、デリス、薬剤成分の残留、イエシロアリを実施。母島長浜トンネル～東港にかけてのイエシロアリの監視の為、既に設置しているステーションでのモニタリングの継続実施と長浜トンネル付近、東台で新たにルートモニタリングを実施。 母島新夕日ヶ丘において、「新夕日ヶ丘のワーキンググループ」活動の一環で外来種対策を実施し、希少昆虫の生息環境の森林再生の取り組みを行う。 弟島、母島(長浜、衣箱、東台)の既往試験地でのモニタリング調査を実施。弟島では初回駆除時に見落とされたと思われるアカギ小群落(数十本)を駆除。 父島東平のノヤギ・ノネコ排除柵の内側民有地を対象に外来植物駆除処理を実施(22.88ha 対象)。 母島及び銀座文祥堂ホールなどにおいてしづや木工塾との協同でアカギ箸ワークショップを開催し普及啓発を推進。アカギおがくずを利用した「おがくず粘土」の開発。	給など駆除後のエリアへの侵入が懸念される。
モクマオウ(リュウキュウマツを含む)	環 11 外来植物対策調査業務(モクマオウ・リュウキュウマツ対策)	兄島	兄島台地上における既往駆除試験のモニタリング 既往駆除試験地における残存木処理 ランタナ既往試験地におけるモニタリング 弟島におけるギンネム、ガジュマル実生個体の駆除	確認中	兄島台地上における既往駆除試験のモニタリングおよび侵入個体の駆除処理 弟島におけるギンネム根絶に向けた駆除処理の継続実施、ガジュマル実生個体の駆除及び弟島における外来植物監視体制の構築	兄島におけるモニタリング 弟島におけるモニタリング 母島属島における外来植物対策検討 シロアリに関するモニタリング	(実施中) 兄島台地上における既往駆除試験のモニタリングおよび既往試験地(16.5ha)における再生個体・侵入個体の駆除処理 弟島におけるギンネム根絶に向けた駆除処理の継続実施、弟島民有地における今後の駆除対策方針についての検討 母島属島(妹・姉・姪島)民有地における侵略的外来種の侵入状況の把握と今後の外来植物対策の検討 母島北部地域におけるイエシロアリ対策の対応等	
アカガシラカラスバト	環 12 アカガシラカラスバト保護増殖事業に関する調査等業務	父島列島	目撃情報の収集・管理 生息状況調査 標識装着 餌資源調査	非繁殖期(4～10月)に延べ129羽の目撃情報を収集整理した。 繁殖期に父島東平及び中央山の2箇所で計2羽のヒナの巣立ちが確認された。 8羽に足環を装着、1羽の足環を交換。 繁殖期の主要餌資源であるアコウザンショウの父島における分布を把握・整理した。	目撃情報の収集・管理 生息状況調査 標識装着 餌資源調査 環境条件の地理的情報整理	非繁殖期(4～9月)に延べ195羽の目撃情報を収集整理した。 父島で繁殖期の調査を実施中。 12月までに8羽に足環装着。 非繁殖期(5～9月)に父島において餌資源となり得る植物の結実状況を調査した。 好適繁殖地の把握のための地理的情報を収集。	目撃情報の収集・管理 生息状況調査 標識装着 餌資源等繁殖環境条件の調査 繁殖環境条件の解析及び好適繁殖地の抽出	「アカガシラカラスバト保護増殖分画会」で検討。
オガサワラオオコウモリ	環 13 オガサワラオオコウモリ生息状況等調査事業	父島			生息数調査 冬季ねぐら域の環境調査 農地等の地理的情報整理	冬季ねぐら域及び周辺において生息数調査を実施中。 ねぐら形成域の環境条件の把握を検討。 父島における事故等危険地域把握のための情報を収集。	生息数調査 冬季ねぐら域の環境調査 農地等利用域の環境要素及び作物被害状況の把握	

事業項目			平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	課題・備考	
種名		事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業進捗		事業内容(案)
希少昆虫類	環 14	小笠原希少昆虫保護増殖事業に関する調査等業務	父島属島、母島属島	オガサワラシジミ、オガサワラトンボ、オガサワラアオイトトンボ、ハナダカトンボ、オガサワラハンミョウの生息状況調査、生息環境調査、課題の抽出、普及啓発の促進、検討会の開催。	各種の生息可能性の高い地域において、生息状況調査及び生息環境調査を行った。 これまでの知見及び上記調査結果をもとに、種ごとの短期・中期の具体的な課題及び対応策を抽出した。 昆虫5種の保護に対する理解と協力を得るため、パンフレットの作成及び住民説明会を開催した。 関係行政機関、研究者及び地元の団体等による連絡会議を設置し、第1回連絡会議を開催した。	オガサワラシジミ、オガサワラトンボ、オガサワラアオイトトンボ、ハナダカトンボ、オガサワラハンミョウの生息状況調査、生息環境調査、保護増殖事業中期実施計画の作成、シュロガヤツリ(外来植物)の試験駆除、普及啓発の促進、連絡会議の開催。	各種の生息可能性の高い地域において、生息状況調査及び生息環境調査を実施中。 中期実施計画を作成中。 オガサワラハンミョウの個体数減少が続いており絶滅の危険があることから、生息域外保全に関する検討を開始。 昆虫5種の保護に対する理解と協力を得るため、住民説明会を開催した。 生息状況把握及び密猟防止目的の巡視を実施中。 関係行政機関、研究者及び地元の団体等による連絡会議を2回開催した。	昆虫5種の生息状況調査及び生息環境調査 オガサワラハンミョウの生息域外保全 シュロガヤツリ(外来植物)の試験駆除 普及啓発の促進 連絡会議の開催	「小笠原昆虫保護増殖事業連絡会」において検討。
希少植物	環 15	小笠原希少野生植物の生育状況調査等域内保全事業 小笠原希少野生植物域外保全事業	父島、兄島、母島、妹島、域外保全施設	種の保存法に基づく政令指定されたムニンツツジ等希少植物12種について、生育地における生育状況調査等の域内保全事業及び系統保存等の域外保全事業を実施	生育地における生育状況等のモニタリング、ノヤギ、ネズミ類による食害防止のための簡易な柵の補修、生活史解明のための調査等を実施。 域外保全施設において、野生株から育成した個体の系統保存、苗の育成増殖、増殖技術の試験等を実施。	生育地における生育状況等モニタリング ノヤギ、ネズミ類による食害防止等生育環境の維持改善 域外保全施設における系統保存、増殖技術の試験等	生育地における生育状況等のモニタリングを実施中。 母島でホシツルランのウィルス感染が確認されたため、感染株(過去に植栽した株)を除去。 台風で倒壊した父島ムニンツツジのノヤギ防止柵を再設置。 域外保全施設において、系統保存、増殖技術の試験等を実施中。	生育地における生育状況等モニタリング ノヤギ、ネズミ類による食害防止等生育環境の維持改善 域外保全施設における系統保存、増殖技術の試験等	

実施機関：林野庁関東森林管理局

事業項目			平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	課題・備考	
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業進捗	事業内容(案)		
外来植物 (アカギ、 モクマオウ等)	林1	小笠原諸島外来植物分布状況調査	小笠原諸島	20年度撮影の空中写真(父島列島、母島)により外来植物の分布状況等を分析した。小笠原諸島全域について空中写真を撮影した。	20年度撮影の空中写真(父島列島、母島)により外来植物の分布状況等を分析し、分布図を作成するとともに駆除優先地域の選定及び判読精度の検証(判読結果と現地の検証)を行った。判読精度は77%であった。また、小笠原諸島全域について、21年度に空中写真撮影を行った。	21年度撮影の空中写真により、21年度実施箇所以外の島(母島列島のうち、向島・姉島・妹島・姪島・平島、聳島列島、火山列島及び西ノ島)の外来植物の分布状況等を分析した。	21年度撮影の空中写真(母島属島、聳島列島、火山列島、西ノ島)により外来植物の分布状況等を分析し、分布図を作成するとともに駆除優先地域の選定及び判読精度の検証(判読結果と現地の検証)を行った。判読精度はおおよそ86%(試算)である。 なお、平成21年度及び22年度調査により、小笠原世界遺産候補地全域の外来植物分布図が完成する見込みである。	-	「小笠原諸島における外来植物分布調査事業検討委員会」で検討。
	林2	中・長期の外来植物駆除計画策定	小笠原諸島					専門家からなる検討委員会を設置して、「林15」で作成した外来植物分布図等をベースに、島毎、地域毎、樹種毎等に優先順位を検討し、中長期的な駆除計画を作成する予定。	
アカギ、モクマオウ、リュウキュウマツ等	林3	森林生態系の修復を目的とした外来植物の駆除	母島、父島、兄島等	アカギ等の駆除、萌芽刈払い等を実施した。 モクマオウ等の駆除を実施した。 20年度外来植物駆除地で、事後のモニタリング調査を実施した。 21年度以降の駆除予定地で、事前モニタリング調査を実施した。	アカギについて、母島石門の下の段及び中の段(10.31ha)で薬剤注入による駆除(約180本)並びに稚幼樹の抜き取り及びパパイアの刈払いを実施。長浜等(2.55ha)でアカギ等の樹幹注入による駆除(65本)及び稚幼樹の抜き取り、桑の木山(0.93ha)で薬剤注入による駆除等(約200本)を実施した。 モクマオウ等について、兄島(7.95ha)で薬剤注入による駆除(約600本)を実施した。 20年度外来植物駆除地である、母島西台、南崎において、事後のモニタリング調査を実施した結果、薬剤注入木は全て枯死するとともに昆虫や陸産貝類等への駆除の影響は確認されなかった。 21年度以降の駆除予定地である父島東部(約28ha)、兄島(約15ha)、弟島(約5ha)、母島石門(約17ha)、西台(約11ha)、向島(約19ha)で、侵略的外来植物(アカギ、モクマオウ、リュウキュウマツ、ギンネム、ランタナ、ガジュマル等)の分布及び希少種の分布調査を実施した。	薬剤注入によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ等の駆除を、父島等々で実施した。 また、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を母島で実施した。 外来種駆除に当たっては、順応的な管理のため、事前モニタリング・事後モニタリングを実施した。 23年度以降の駆除予定地で、事前モニタリング調査を実施した。	薬剤注入による駆除を、父島東部(約18ha)でアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウを約160本、兄島(約13ha)でモクマオウ、リュウキュウマツギンネムを約220本、弟島(約7ha)でモクマオウ、リュウキュウマツ、ソウシジウ等を約320本、母島石門(約17ha)でアカギ、ガジュマル等を約720本、西台(約11ha)でアカギ等を約150本、向島(約19ha)で、モクマオウ、ギンネムを約160本を駆除する予定。 また、稚幼樹の抜き取り等を兄島でランタナ、ホナガソウ等を、母島石門及び西台でアカギ及びパパイアを、母島南崎でギンネム等を実施した。 外来種駆除に当たっては、順応的な管理のため、事前モニタリング・事後モニタリングを実施した。 23年度以降の駆除予定地である父島東部(旭山約42ha、桑の木山約36ha)、兄島(約23ha)、弟島(約20ha)、母島石門(約18ha)、西台(約18ha)、桑ノ木山(約22ha)、向島(約18ha)で外来植物の分布調査及び事前モニタリング調査を実施した。	薬剤注入によるアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウ等の駆除を、父島東部(約7ha)、兄島(約15ha)、母島(石門及び西台で約23ha)、向島(約16ha)で予定。 また、アカギ等の稚幼樹の抜き取り等を兄島、弟島、母島(石門、西台、南崎)、西島、東島で実施予定。 外来種駆除に当たっては、順応的な管理のため、事前モニタリング・事後モニタリングを実施予定。 24年度以降の駆除予定地である兄島(約8ha)、弟島(約8ha)、向島(約9ha)、西島(約3ha)、東島(約14ha)で外来植物の分布調査及び事前モニタリング調査を実施予定。	「保全管理委員会」で事業計画等を承認。 「固有生態系修復事業検討委員会」で具体的駆除の進め方等を検討。
	林4	外来植物駆除事業影響調査-シロアリ対策-	父島・母島					外来植物の駆除は、小笠原固有の生態系を保護・保全するための重要な作業である。一方、駆除木は、シロアリの餌木となり、生息密度が高まり、ひいては村民の生活への影響が懸念されている。 これらのことから、今後の外来植物駆除事業に伴うシロアリ対策の指針を検討するため、国有林内のシロアリの生息密度等の調査を実施する予定。	

種名	事業項目		平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	課題・備考	
	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業進捗	事業内容(案)		
その他外来植物、普及啓発等	林5	小笠原原生植生回復ボランティア	母島	アカギの駆除、植生回復のボランティアを企画・開催	11月7日に母島桑の木山において、31名(内地19名、現地12名)のボランティアが参加し、アカギの萌芽刈払い、稚幼樹の抜き取り等(0.5ha)を実施した。小笠原母島観光協会と共催。	現地の安全を確認し実施予定	共催者の小笠原母島観光協会と協議し、実施を見送った。	現地の状況を確認し実施予定	
	林6	外来植物駆除作業体験への協力等	南島、父島等	小笠原中学校の駆除体験活動に協力等	次の外来植物の駆除活動を実施するにあたり、事前レクチャー及び安全指導を実施した。 小笠原中学校のアルファ等の駆除作業体験を12月18日に開催し(都立ツギヤ、野生研と協働)、地元教員3名、生徒13名(1年生)が参加して、外来植物を駆除した。 小笠原中学校のアカギの駆除作業体験を11月4日に開催し(小笠原自然観察指導員連絡会と協働)、地元教員4名、生徒11名(1年生)が参加した。 モクモウ等の駆除作業体験を、8月24日~9月3日に開催し(野生研と協働)、東京農業大学ボランティア部34名が参加した。駆除木は、木炭及び歩道修繕の材料として有効活用を図るとともに駆除後のモニタリングを継続実施している。 母島桑ノ木山において、アカギの駆除作業体験を12月15日に開催し(母島観光協会と協働)、萌芽刈払い、稚幼樹抜き取り(0.3ha)日本自然環境専門学校(講師1名、学生10名)が参加した。 母島南崎において、ギンネムの駆除作業体験を3月5日に開催し(母島観光協会と協働)、稚幼樹の刈り払い及び抜き取りを行い、内地大学生10名が参加した。	小笠原中学校の駆除体験活動等に協力した。	次の外来植物の駆除活動を実施するにあたり、事前レクチャー及び安全指導を実施した。 小笠原中学校の南島におけるムラサキノキビ等の駆除作業体験を10月21日に開催し(都立ツギヤ、野生研と協働)、地元教員4名、生徒21名(1年生)が参加して、外来植物を駆除した。 小笠原中学校の東平アカガシラカラスバトサンクチュアリーにおけるアカギ等の駆除作業体験を10月28日に開催し(小笠原自然観察指導員連絡会と協働)、地元教員4名、生徒21名(1年生)が参加した。 小笠原高校の兄島におけるランタナの駆除活動を、7月26日に開催し(野生研・固有生態系の修復事業の受託者と協働)、地元教員8名、生徒39名が参加して、外来植物の駆除した。 父島焼場海岸等において、モクモウ、アカギ等の駆除作業体験を、8月27日~9月4日に開催し(小笠原自然観察指導員連絡会及び野生研と協働)、東京農業大学ボランティア部学生34名・教授1名が参加した。駆除木は、歩道修繕の材料として有効活用を図るとともに駆除後のモニタリングを継続実施している。 その他、小笠原自然観察指導員連絡会と協働で、父島において、8月16日にキバンジロウの駆除作業体験を、8月21日にホナガソウの駆除作業体験を開催した。	必要に応じ協力または継続予定	
	林7	地元NPOと連携した外来植物駆除	父島等	在来種の植生回復を図るため、地元NPO等と整備協定を締結し、外来種駆除(モクマオウ等)を実施予定	小笠原諸島森林生態系保護地域において、固有の森林生態系の修復・保全等の活動をボランティア団体等と国有林が協働・連携して実施するため、22年3月に地元NPO等と協定を締結した。 ・小笠原自然観察指導員連絡会(旭山国有林約154ha) ・特定非営利活動法人小笠原クラブ(西島国有林約43ha) ・特定非営利活動法人小笠原野生生物研究会(旭山国有林約14ha)	協定を締結した地元NPO等と協働・連携し、固有森林生態系の修復・保全のための外来種駆除や固有動植物の調査等を実施した。	特定非営利活動法人小笠原野生生物研究会と締結した村民の森(父島)において、モクマオウ等の薬剤注入、ランタナ等の抜き取り等を実施した。 小笠原自然観察指導員連絡会と締結したハトの森(父島)において、駆除予定のモクマオウ等の確認、アカガシラカラスバトの繁殖状況の調査等を実施した。 特定非営利活動法人小笠原クラブと締結した西島の固有森林生態系の修復と保全の森において、土壌水分量の調査や陸産貝類のモニタリングのコードラートの設置、トンボ池の設置等を行った。	協定を締結した3つの地元NPO等と協働・連携し、固有森林生態系の修復・保全のための外来種駆除や固有動植物の調査等を実施する予定。 東島等について、新たに地元NPOと協定を提携予定。	「保安全管理委員会」で活動状況等を検討
林8	ノネコ	父島	ノネコの緊急捕獲	父島東平において、ノネコの緊急捕獲を実施した。 捕獲したネコは小笠原ネコに関する連絡会協力のもと東京都獣医師会へ搬送した。	ノネコの緊急捕獲を実施した。	父島東平において、ノネコの緊急捕獲を実施した。 捕獲したネコは小笠原ネコに関する連絡会協力のもと東京都獣医師会へ搬送した。	必要により実施予定		

事業項目			平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	課題・備考	
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業進捗	事業内容(案)		
固有種等	林9	希少野生動植物種の保護管理等	父島・母島	希少野生動植物種の保護・保全を実施した。	種の保存法に基づく政令指定されたアカガシラカラスバト等4種、ムニンツツジ等12種、オガサワランジミ等5種を対象に自然保護管理員による巡視を実施した。 アカガシラカラスバト等野鳥の水場を確保するため母島に人工水場を設置し、清掃、水の補給を地元協力者により年間36回実施した。 入り込み者への普及・啓発のためグリーン・サポート・スタッフによる巡視、啓発用のチラシの配布を行った。	希少野生動植物種の保護・保全を実施した。	種の保存法に基づく政令指定されたアカガシラカラスバト等4種、ムニンツツジ等12種、オガサワランジミ等5種を対象に自然保護管理員による巡視を実施した。 アカガシラカラスバト等野鳥の水場を確保するため母島に人工水場を設置し、清掃、水の補給を地元協力者により年間36回実施した。 入り込み者への普及・啓発のためグリーン・サポート・スタッフによる巡視、啓発用のチラシの配布(約1,400枚)を行った。	希少野生動植物種の保護・保全を実施予定。	「保全管理委員会」で検討
	林10	希少野生動植物種保護管理対策調査	母島列島、父島	アカガシラカラスバト及びオガサワラカワラヒワ保護管理対策調査を実施した。	アカガシラカラスバトへの足輪の装着はできなかった。アカガシラカラスバト及びオガサワラカワラヒワの生息環境等の調査を母島及び向島、姉島、妹島、姪島で32日間実施した。	アカガシラカラスバトの保護対策に資するため足輪装着並びにアカガシラカラスバト及びオガサワラカワラヒワ保護管理対策調査(母島、向島、姉島、妹島及び姪島)を実施した。	アカガシラカラスバトへの足輪の装着はできなかった。アカガシラカラスバト及びオガサワラカワラヒワの生息状況等の調査を母島及び向島、姉島、妹島、姪島で23日間実施した。 オガサワラカワラヒワの個体群動態を明らかにするため向島等において足輪の装着を3月に実施する予定である。 不落等のため、22年度調査は中止することとなった。	アカガシラカラスバト及びオガサワラカワラヒワ保護管理対策調査を実施予定。 22年度に調査を中止した内容で、実施する予定。	希少野生動植物種保護管理対策調査委員会で検討
	林11	父島アカガシラカラスバトサンクチュアリー整備	父島	アカガシラカラスバトの生息環境の維持修繕、保護等	地元NGO等の協力を得て、リュウキュウマツ等外来植物の駆除を実施した。 利用ルールにより、アカガシラカラスバトを保護した。	アカガシラカラスバトの生息環境の維持修繕、保護等を実施した。	地元NGO等の協力を得て、リュウキュウマツ等外来植物の駆除を実施した。 利用ルールにより、アカガシラカラスバトを保護した。 利用者がルートを外れないように木道の整備を実施した。	アカガシラカラスバトの生息環境の維持修繕、保護等を実施予定。	「保全管理委員会」で検討

実施機関：東京都

事業項目			平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	課題・備考		
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業進捗	事業内容(案)			
ノヤギ	都 1 兄島・弟島植生回復事業	兄島	都レンジャーによる巡回作業の一環で、目視による残存個体や糞粒の確認。	巡回や各種調査の結果、生息の痕跡は確認されず根絶と判断	今年中の根絶を目指して排除作業を継続 モニタリング調査の継続	ノヤギ7頭を排除(すべて銃器)。生息は確認されなくなり、ほぼ根絶したと見られる。 継続して調査を実施。モクマオウの増加が見られた。	ノヤギ分断柵、植物保護柵撤去	『小笠原弟島・兄島ノヤギ排除検討委員会』にて検討		
		弟島	残存個体数の把握と共に、根絶を目指す。モニタリングの継続。	ノヤギ 89 頭を排除(すべて銃器)。残りは 10 頭程度と思われる。 オガサワラグワなど、植生についてモニタリング調査を実施			父島ノヤギ排除検討委員会を開催し、排除計画を策定。1月より排除作業を開始。1月31日現在21頭を排除。 検討委員会でモニタリング手法を検討し、調査を開始		ノヤギ残存個体の確認や、植生についてモニタリング調査を継続	『小笠原父島ノヤギ排除検討委員会』にて検討
		父島	父島のノヤギ排除手法の検討。関係機関と連携の上、排除作業実施に向けた島内調整。	父島の生息調査を実施。父島の生息数は約 1000~1500 頭と推定。 生息調査を受け全体排除計画の調整(継続中)			排除計画策定後、排除作業に着手		排除作業を継続	
プラナリア	都 2 都レンジャーの配置	父島 母島 属島	父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発、利用者指導の継続。	父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発や利用者指導を継続実施。	父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発、利用者指導の継続。	父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発や利用者指導を継続実施。	継続して実施する	都レンジャー 父島3名 母島3名		
アカギ・モクマオウ・リュウキュウマツ	都 3 都用地外来植物対策事業	父島					国有林での対策状況にあわせ、対策が必要とされるエリアの都用地においてアカギ等の駆除作業を行う。手法については薬剤注入など国有林での事業に合わせる。	新規事業で詳細は今後調整		
ギンネム、ヤダケ、その他外来植物	都 4 聶島列島植生回復モニタリング	聶島 媒島	平成20年度に引き続き、聶島列島における、自然環境モニタリングを実施。	継続して、外来種生育状況、海鳥類、昆虫類、陸産貝類のモニタリング調査を実施	継続してモニタリング調査を実施	継続して、外来種生育状況、海鳥類、昆虫類、陸産貝類のモニタリング調査を実施 特段の変化は見られない。	継続してモニタリング調査を実施	『小笠原国立公園媒島・聶島植生復元測量調査・設計検討委員会』において検討		
		聶島	聶島列島の植生復元のために必要な残存林保全のための外来種排除。	ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続2.6ha、新規0.1ha実施	ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続2.7ha、新規0.04ha実施 (同一箇所では3年は駆除作業を継続)	ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続3.1ha、新規0.002ha実施	ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続2.01ha実施 (同一箇所では最低3年は駆除作業を継続)			
	都 5 媒島植生回復事業	媒島	引き続きギンネム、タケ、ササ類の排除。 引き続きダム等を設置するなど、土砂流出対策を実施。	ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続2.5ha、新規1.6ha実施 聶沢支流でのり切工、土のう筋工、侵食防止シート工などを実施	ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続4.1ha、新規2ha実施 (同一箇所では3年は駆除作業を継続) 引き続き、ダム設置、のり切工、侵食防止シート工や仮設モノレールの設置等を行う。	ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続3.1ha、新規2.5ha実施	ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続4.55ha実施 (同一箇所では最低3年は駆除作業を継続) 引き続き、ダム設置、のり切工、侵食防止シート工や仮設モノレールの設置等を行う。	『小笠原国立公園媒島・聶島植生復元測量調査・設計検討委員会』において検討		
	都 6 南島植生回復事業	南島	継続的な事業実施。 侵略的な外来種について、優先順位を決めて排除。	シンクリノイガ、コマツヨイグサ、オオバナセンダングサ及びアレチノギク等の除去を計26回実施し、除去量1480kg(90ゴミ袋で270袋)。	継続的な事業実施 侵略的な外来種の排除 (シンクリノイガ等の外来草本及びモクマオウ、ガジュマル等の外来木本の排除を実施、ネズミ排除を検討)	シンクリノイガ、コマツヨイグサ、オオバナセンダングサ及びアレチノギク等の除去を1月31日現在25回実施し、除去量1570kg(90ゴミ袋で292袋)。 南島に生育する外来木本は全て排除。(モクマオウ13本、ガジュマル1本、シマグワ2本)	継続的な事業実施 侵略的な外来種の排除 (シンクリノイガ等の外来草本及びモクマオウ、ガジュマル等の外来木本、ネズミ排除)	地元 NPO においても関連機関(小笠原総合事務所国有林課、小笠原村)の協力のもと外来種駆除ボランティアを実施している。		
都 7 南島自然環境モニタリング	南島	モニタリングの継続。	微地形、植生、気象観測、外来植物分布、クマネズミ生息、海鳥類、利用状況、訪花昆虫等の調査を実施。	モニタリングの継続。	微地形、植生、気象観測、外来植物分布、クマネズミ生息、海鳥類、利用状況、訪花昆虫等の調査を実施。	モニタリングの継続。	『南島モニタリング調査検討委員会』にて検討			

種名	事業項目			平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	課題・備考
	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業進捗	事業内容(案)		
アカガシラカラスバト	都 8	アカガシラカラスバト保護増殖事業(域外保全)	内地	継続して保護増殖を実施	25羽飼育(上野19、多摩6)。産卵数65、18羽孵化、7羽成育。	継続して保護増殖を実施	26羽飼育(上野20、多摩6)。産卵数21、4羽孵化、4羽成育。	継続して保護増殖を実施	アカガシラカラスバト保護増殖分科会にて検討
	都 9	アカガシラカラスバト生息調査	火山列島	遺伝的多様性調査のため、北硫黄島において生息調査を実施	1羽を捕獲、足環付け、DNAサンプル採取。	北硫黄島において生息調査を予定(6月)	北硫黄島において生息調査を実施(6月) 1羽を捕獲、足環付け、DNAサンプル採取	継続して北硫黄島において生息調査を予定	"
オガサワラシジミ	都 10	オガサワラシジミ保護増殖事業(域外保全)	内地	継続して保護増殖を実施	小笠原で1を採集し(第1世代)、現地で採卵を実施。49卵の採卵に成功する。(H22.年3月実施)	継続して保護増殖を実施し、飼育繁殖技術の確立を目指す。	搬入した卵より47卵孵化(第2世代)、33匹が羽化。このうち1ペアの交尾に成功。交尾が213卵産卵し、128卵孵化(第3世代)、40匹羽化。第3世代での交尾は成功せず。個体の死亡をもって飼育は終了。	継続して保護増殖を実施し、飼育繁殖技術の確立を目指す。	「小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議」にて検討
	都 11	オガサワラシジミ保全事業	母島					都営地において、外来種を除去や食餌木の植栽等により、生育環境の改善を実施	" 新規事業で詳細は今後調整
オガサワラオオコウモリ	都 12	オガサワラオオコウモリ保全事業(仮)	父島					都営地において、外来種を除去し生育環境の改善等を実施	新規事業で詳細は今後調整
アホウドリ類	都 13	アホウドリ類繁殖状況調査	聳島列島 父島列島 母島列島	継続して繁殖状況調査	聳島列島においてクロアシアホウドリ794羽、コアホウドリ9羽の巣立ち直前雛を確認。 母島列島においてクロアシアホウドリ7羽の巣立ち直前雛を確認。	継続して繁殖状況調査	父島列島で、初めてクロアシアホウドリの繁殖を確認。4羽を確認。 聳島列島でクロアシアホウドリ915羽、コアホウドリ14羽を確認 母島列島でクロアシアホウドリ9羽を確認	継続して繁殖状況調査	地元 NPO 小笠原自然文化研究所と連携して実施。

実施機関：小笠原村

事業項目			平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	課題・備考	
種名		事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業進捗		事業内容(案)
シンクリノイガ	村1	外来種啓発事業	南島	21年度は、島民に属島の価値感を理解していただくため、南島以外の属島での外来種対策を検討する。 実施規模は年3回程度とする。	未実施	島民に対する外来種啓発事業 島民への普及啓発を目的とした外来種除去作業	H22.9.15(水) 南島で実施 島民ボランティア 14名(募集15名) 除去量:220kg	属島において3回実施予定	
オガサワオオコウモリ	村2	農作物被害対策事業	父島	・硬質ネットを使用したオオコウモリ防除の実証実験 ・被害予防システムの開発	実験継続	・硬質ネットを使用したオオコウモリ防除の実証実験 ・被害予防システムの開発	実験継続 平成22年9月24日台風12号により防除施設モデルが被害を受けた	台風等の強風にも耐える規格とするため、防除施設モデルの仕様見直し及び実証実験	

実施機関：民間・共同・その他

事業項目			平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	課題・備考	
種名		事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業結果		事業内容(案)
ネコ	民1	緊急捕獲事業、平成 21 年度より山域捕獲事業	父島・母島・弟島	父島東平・衝立山・農業センター等においてハト出現時期に緊急捕獲を開始し、その後父島の全域捕獲を前提に作業範囲を展開中。母島南崎については、柵外側での予防的捕獲について前年度同様実施。母島山域のハト出現場所にて緊急捕獲実施。ハトの生息する弟島で実施。	父島で 33 頭、母島で 12 頭、弟島で 2 頭を捕獲し、このうち計 39 頭を島外搬出した。	緊急捕獲事業、平成 21 年度より山域捕獲事業			(小笠原のネコに関する連絡会議にて検討)
ネコ	民2	適正飼養推進事業	父島・母島	東京都獣医師会に、飼いネコの適正飼養やマイクロチップ装着推進に関するため派遣動物診療団を要請(財)自然保護助成基金助成事業の継続) 母島・父島飼養動物調査の結果を受け、動物派遣診療による達成評価	派遣動物診療団により、父島・母島で計 60 頭のネコを診療し、このうち未装着なネコ 25 頭にマイクロチップを挿入した。父島・母島で計 58 頭のイヌを診療した。マイクロチップ挿入率は 48% を達成した。派遣獣医師による飼い主との懇談会を開催し、適性飼養の推進と野生動物保護の理解を図った。	村役場より、東京都獣医師会に飼いネコの適正飼養やマイクロチップ装着推進に関するため派遣同留津診療団を要請(小笠原村事業に小笠原のネコに関する連絡会議、島民飼い主の会等が協力)し実施。	派遣動物診療団により、父島・母島で計 75 等のネコを診療し、このうち未装着なネコ 24 頭にマイクロチップを挿入した。父島・母島で計 64 頭のイヌをを診療した。マイクロチップ挿入率は 66% を達成した。派遣獣医師による飼い主との懇談会を開催し、適正飼養の推進と野生動物保護の理解を図った。	22 年度と同規模で実施予定。更なるマイクロチップ挿入率の向上と適正飼養の推進を図る。新規転入者への周知徹底を図る。	(小笠原のネコに関する連絡会議にて検討)
クマネズミ	民3	西島クマネズミ根絶プロジェクト	西島						
グリーンアノール	民4	オガサワラシジミ保護対策	母島						オガサワラシジミ保全連絡会議にて検討
モクマオウ・リュウキュウマツ	民5	モクマオウ等駆除事業	父島						

【実施機関】

No.1 小笠原ネコに関する連絡会議(自然保護官事務所、小笠原総合事務所国有林課、支庁、村、村教委、NPO 小笠原自然文化研究所)、小笠原自然解説指導員連絡会、(社)東京都獣医師会が実施。

協力:島内獣医師、ボランティア(捕獲・飼育)、小笠原海運(株)、母島観光協会、関東地方環境事務所、東京都環境局

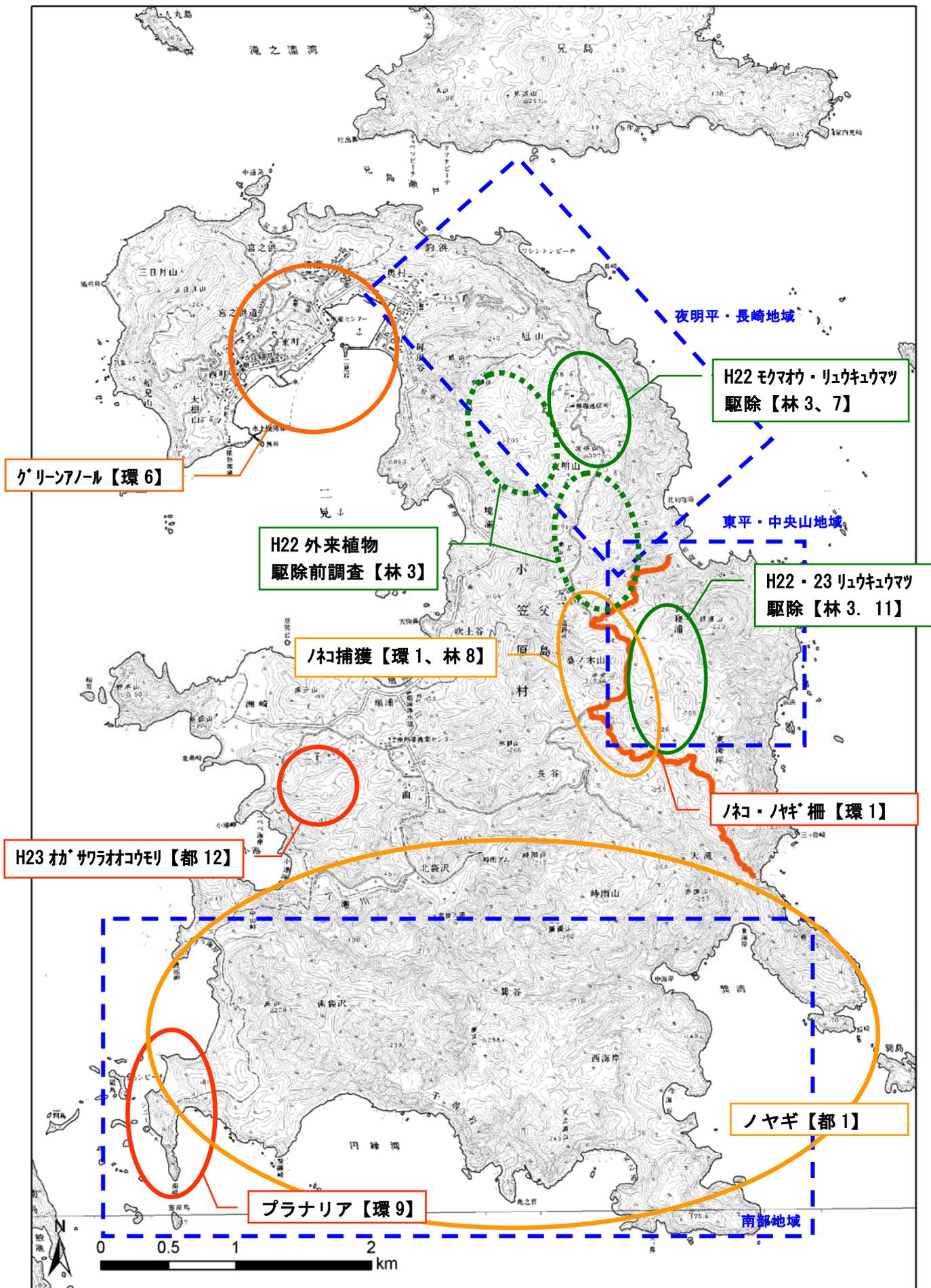
No.2 (社)東京都獣医師会と小笠原ネコに関する連絡会議(自然保護官事務所、小笠原総合事務所国有林課、支庁、村、村教委、NPO 小笠原自然文化研究所)が実施。 協力:NPO どうぶつたちの病院。主な活動資金は(財)自然保護助成基金助成事業による。

No.3 (独)森林総合研究所、(財)自然環境研究センター(環境省総合環境政策局一括計上研究費を活用)

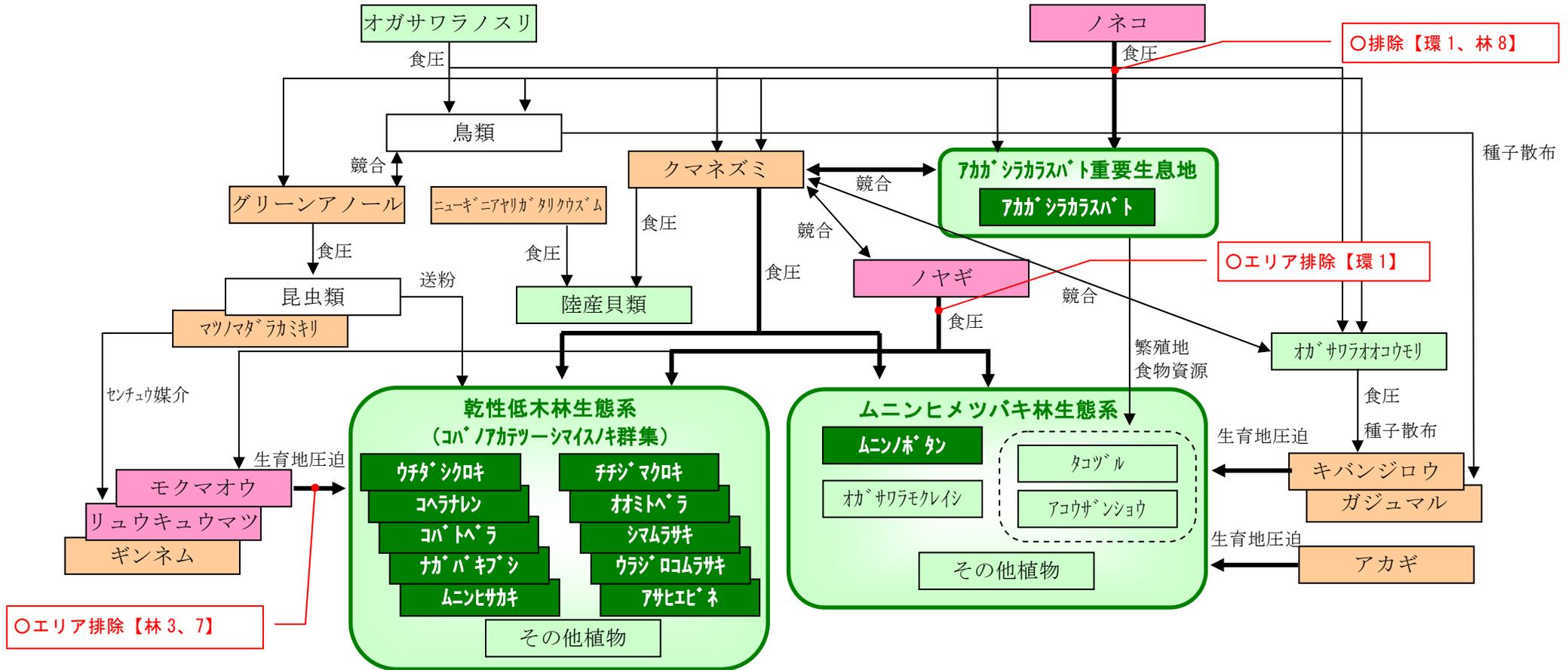
No.4 オガサワラシジミの会、環境省、神奈川県立博物館、東京都動物園協会(東京都立多摩動物公園)、NPO チョウ類保全協会(民間団体の活動の一部については(財)自然保護助成基金助成事業)

No.5 NPO 小笠原野生生物研究会が実施(H19 年度より(財)自然保護助成基金助成事業) 協力:小笠原総合事務所国有林課

【参考図面】 父島における事業実施状況



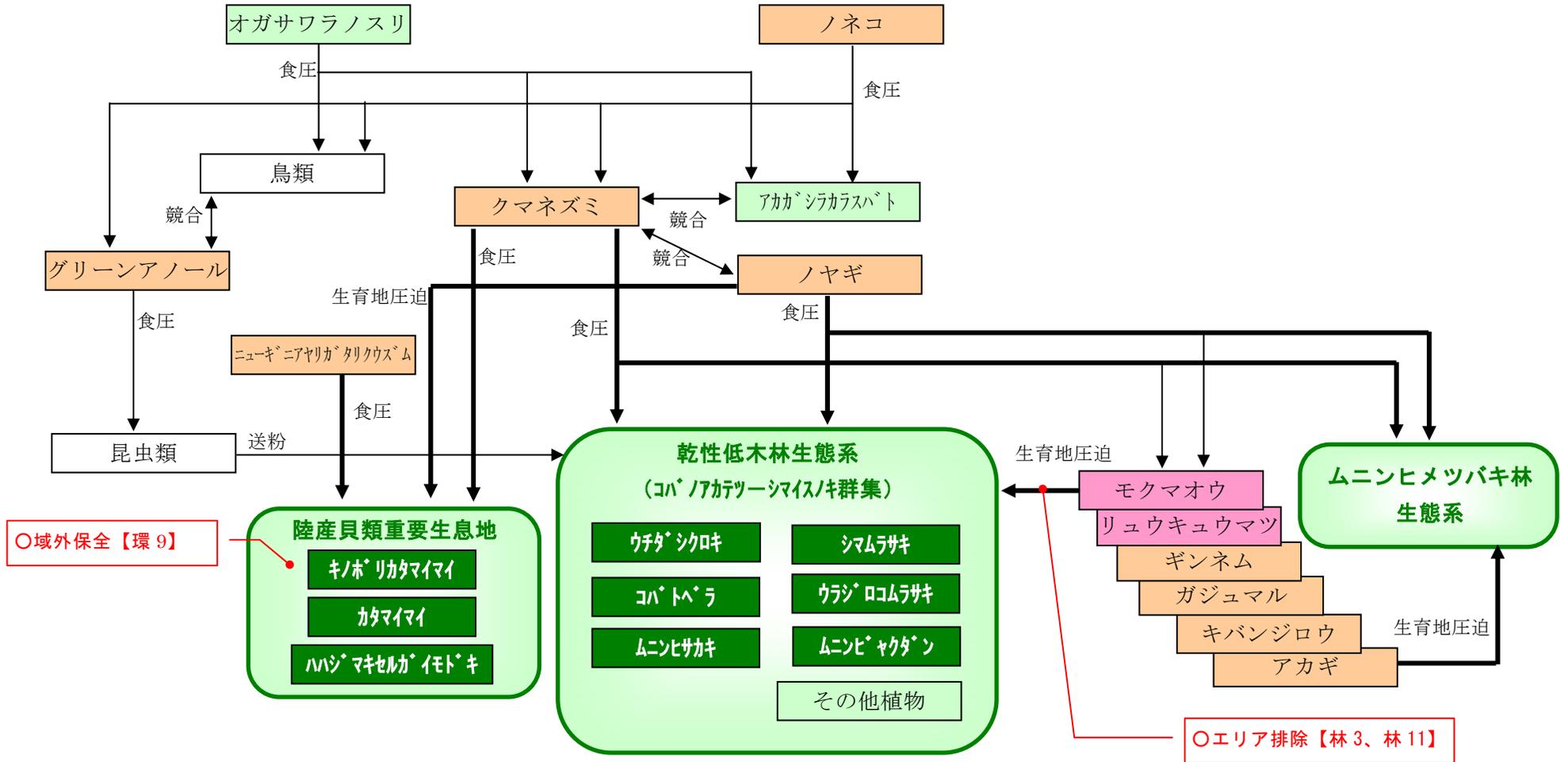
参考図面 父島〔東平・中央山地域〕における種間関係図



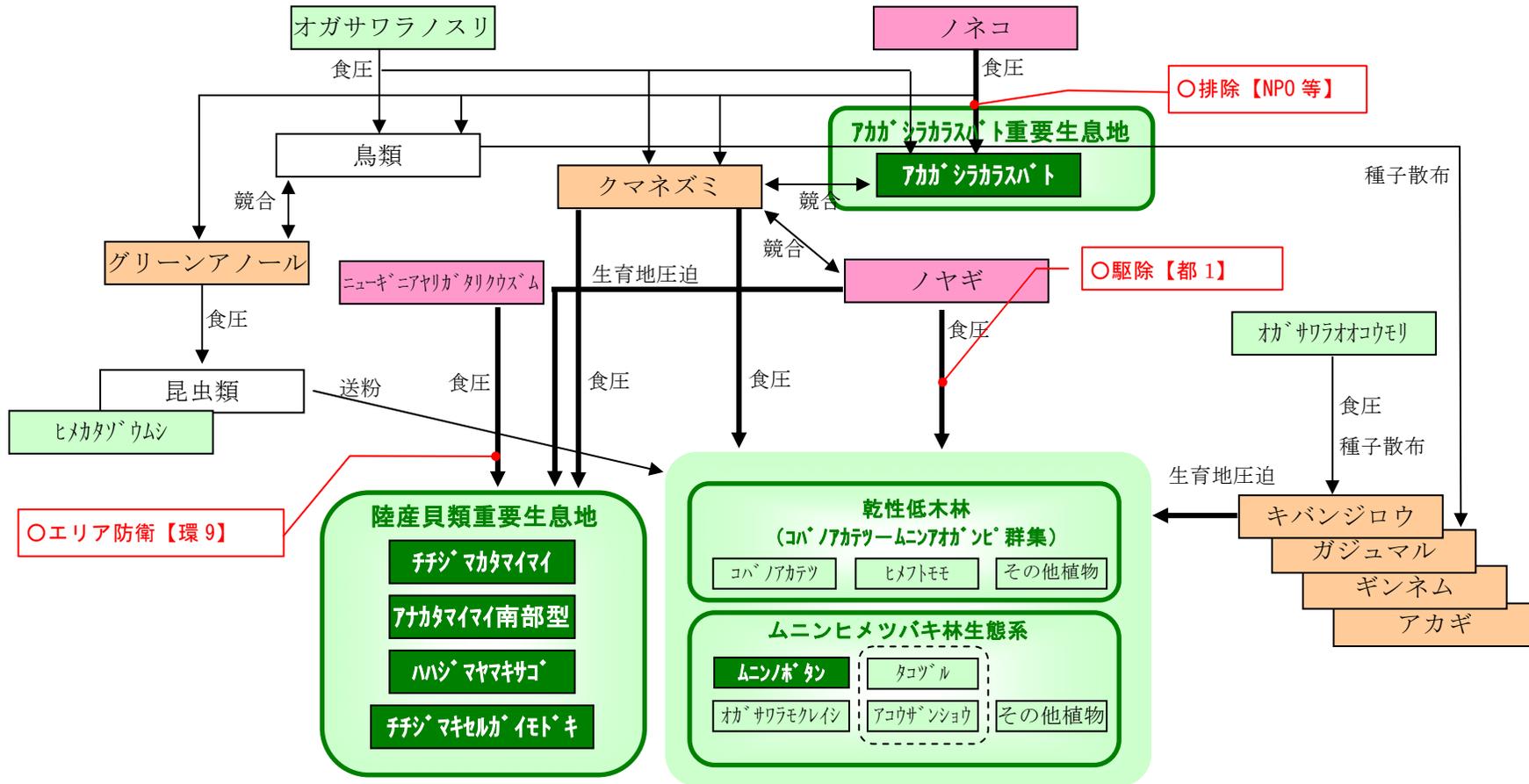
凡例 (他ページも同様)

- | | |
|--|---|
| 対策の方向性に示した保全対象 | 侵略的外来種 |
| 保全優先度が高い固有種及び希少種 | 対策を実施している侵略的外来種 |
| 上記以外の固有種及び希少種 | 関係性が明らかな種間関係 |
| 在来種など | ○ 上記のうち○に影響を及ぼす種間関係 |

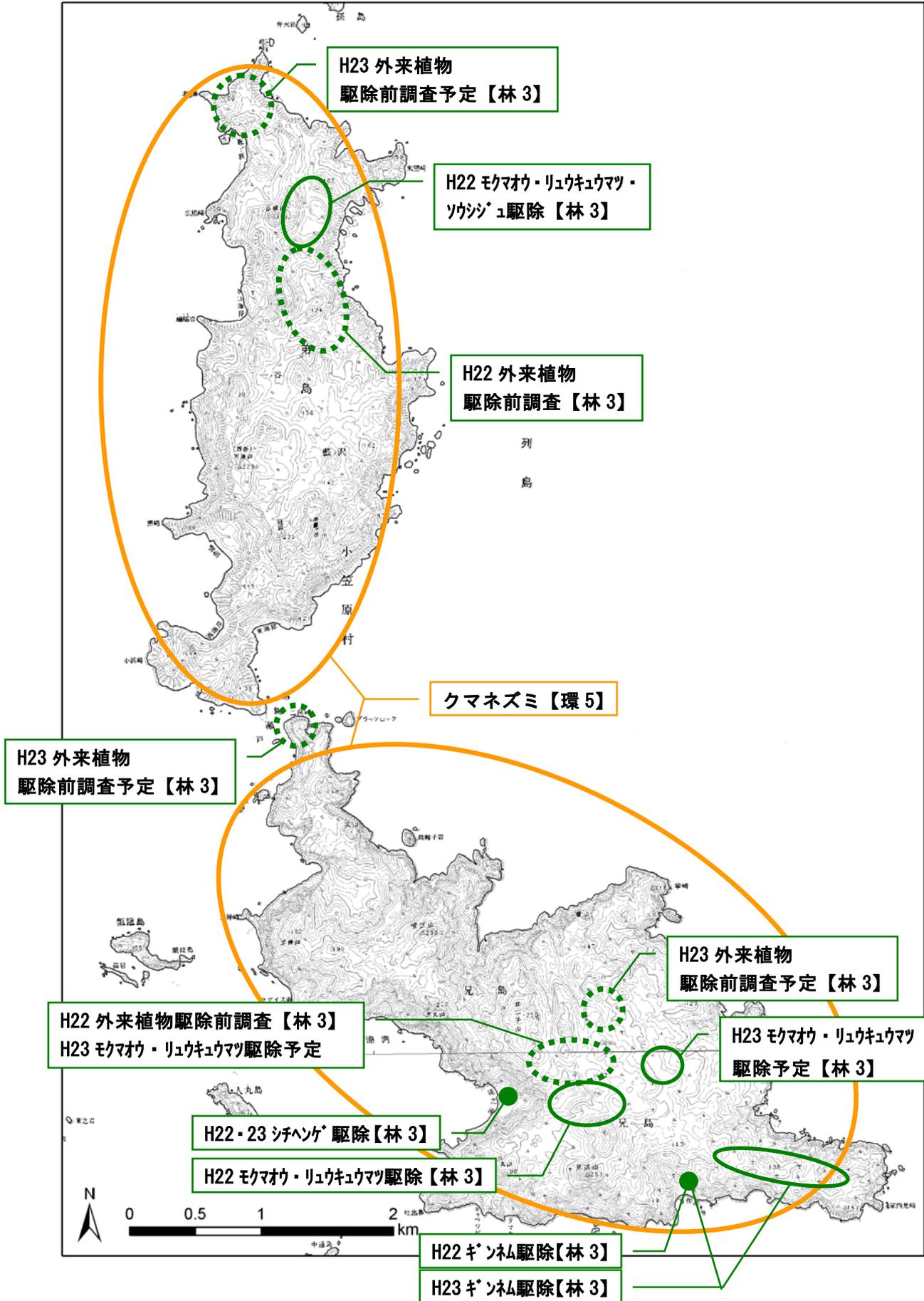
【参考図面】 父島〔夜明平・長崎地域〕における種間関係図



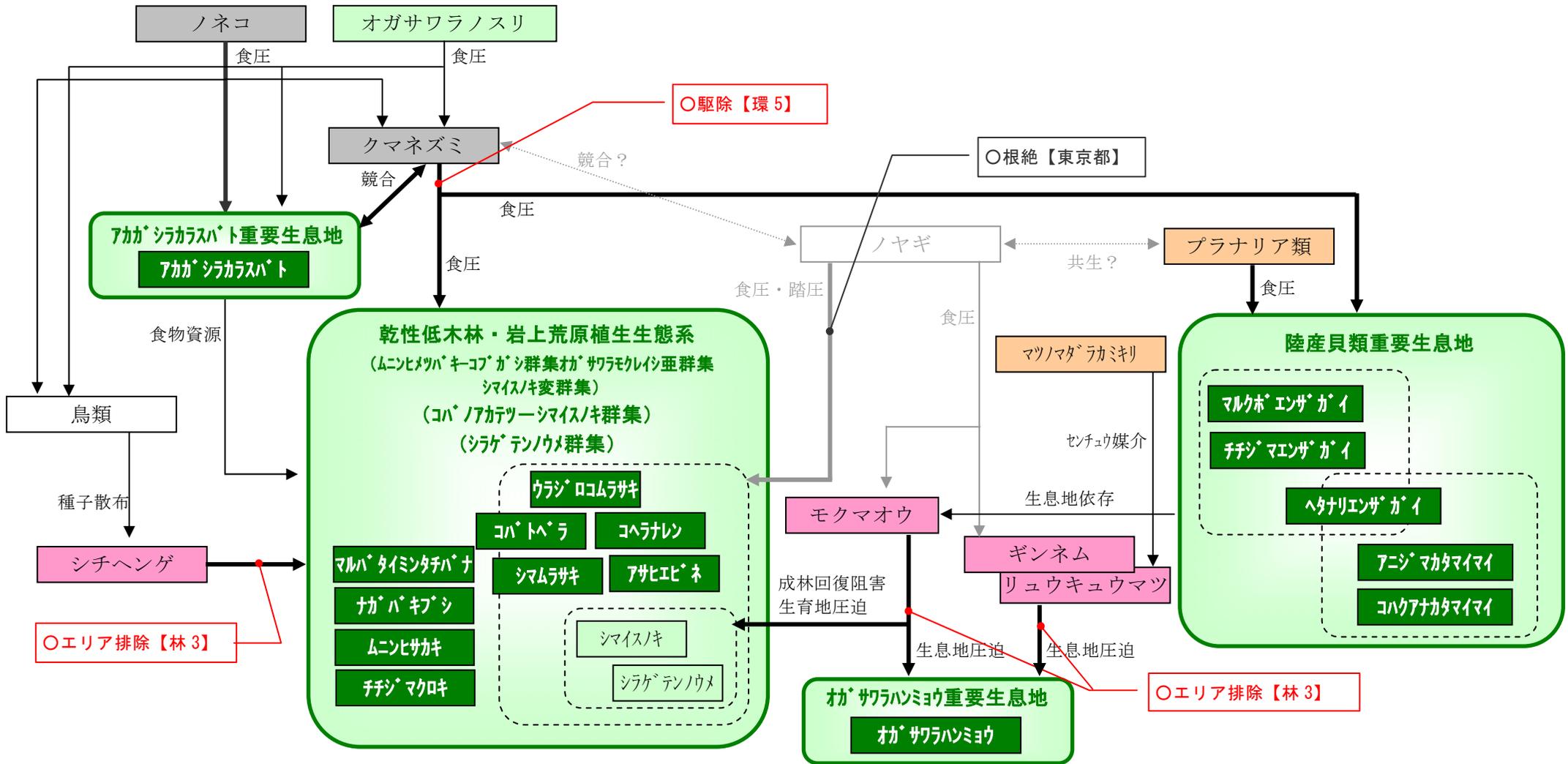
【参考図面】 父島〔南部地域〕における種間関係図



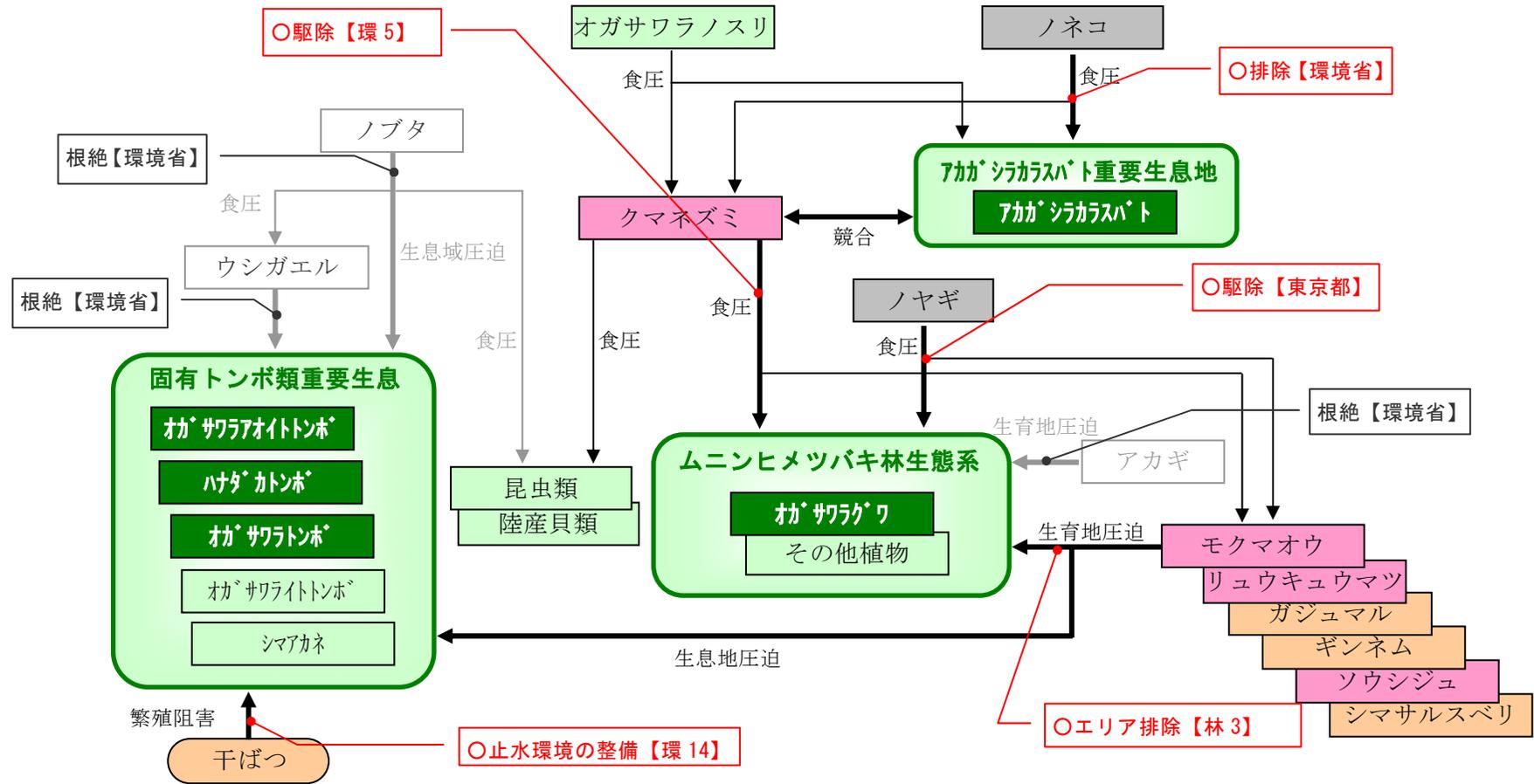
【参考図面】 兄島・弟島における事業実施状況



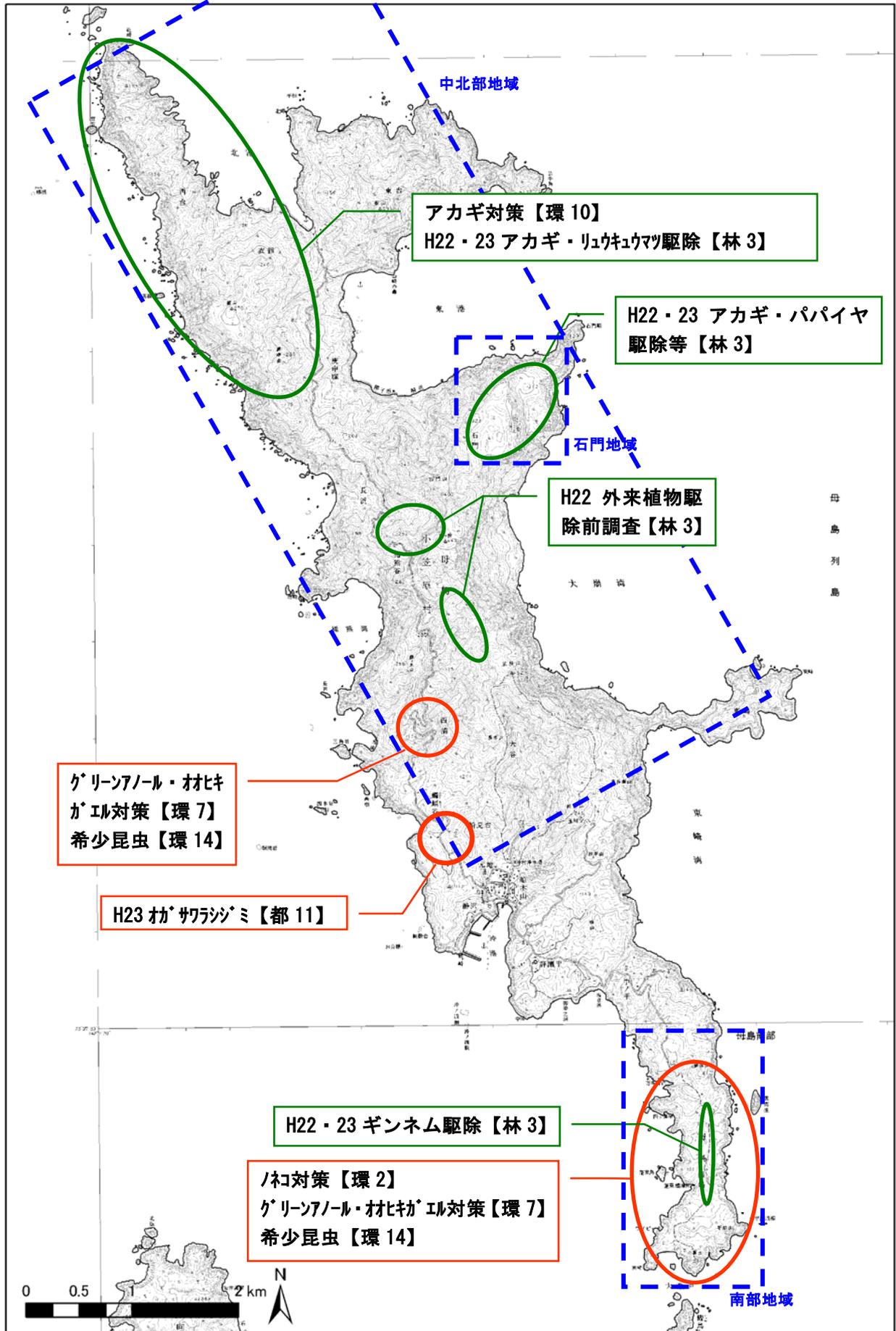
【参考図面】 兄島における種間関係図



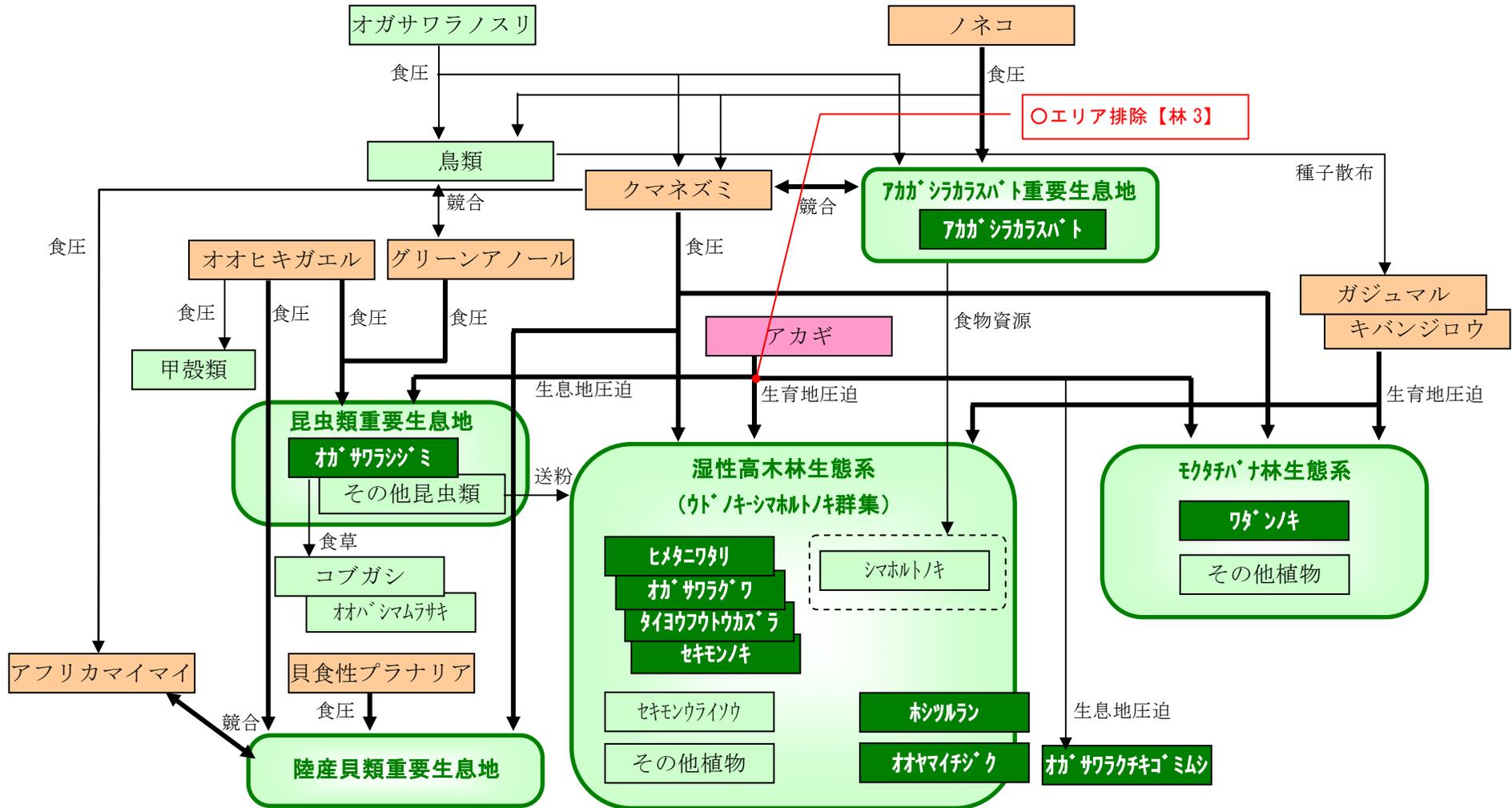
【参考図面】 弟島における種間関係図



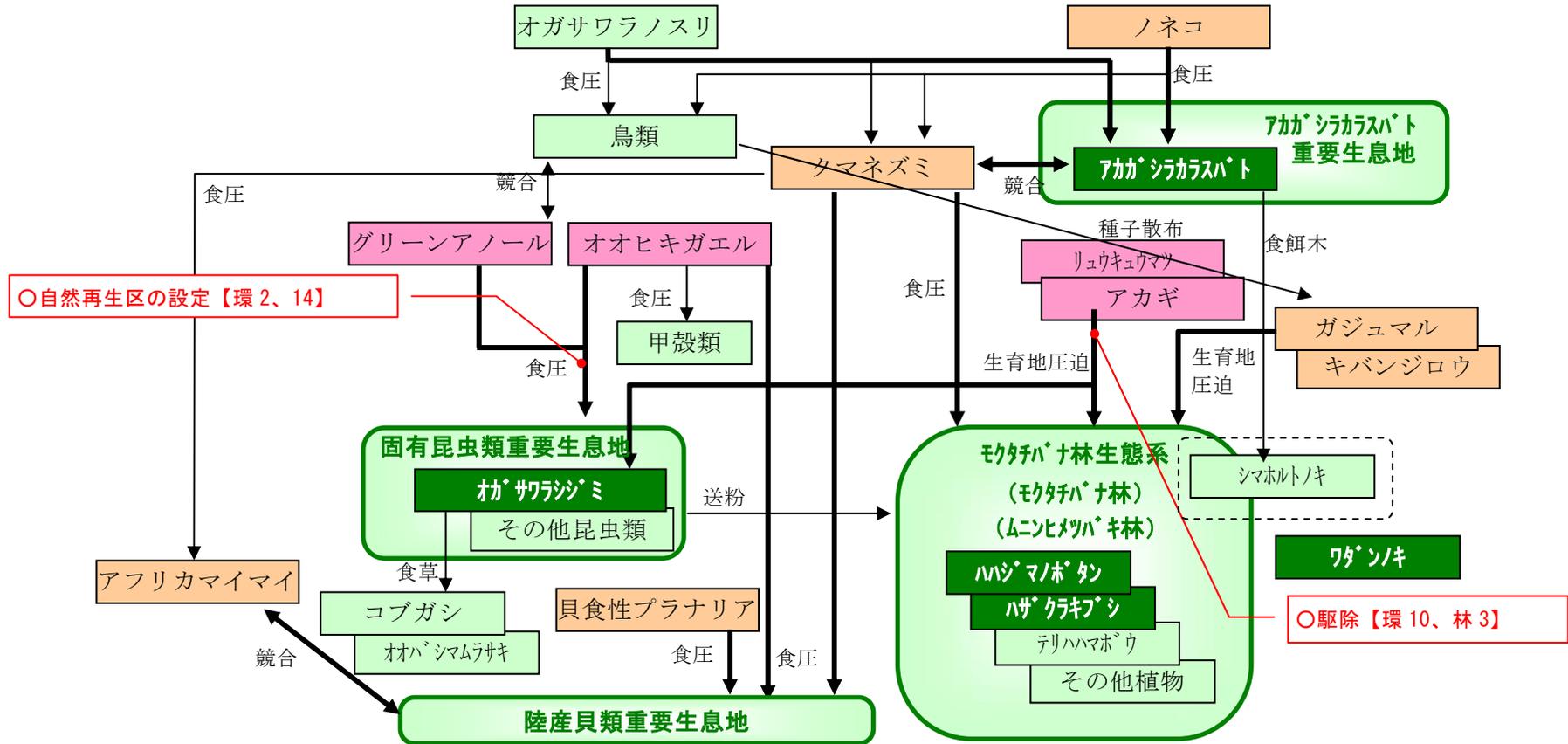
【参考図面】 母島における事業実施状況



参考図面 母島〔石門地域〕における種間関係図



【参考図面】 母島〔中北部地域〕における種間関係図



【参考図面】 母島〔南部地域〕における種間関係図

